

川越市自殺対策に関する意識調査 報告書

川越市保健医療部 保健所

保健予防課

令和5年3月

目次

I 調査の概要	2
II 調査結果	4
1 回答者の属性	4
2 自殺に関する意識について	8
3 うつ病に関する意識について	19
4 悩みやストレスに関すること	27
5 ひきこもりに関すること	41
集計表	47
調査票	68

I 調査の概要

1 調査目的

平成 10 年以降、自殺者が全国で年間 3 万人を超えている状況が続いておりましたが、国を挙げて予防対策の取組みが行われ、令和 3 年は 2 万 820 人に減少となりました。川越市においても、平成 19 年度から自殺対策に取組み、多い年で 80 人を超える自殺者数でしたが、年々減少傾向を示し令和 3 年には 49 人となっています。しかし憂慮する事態は未だ続いていると認識しており、自殺対策を総合的に推進するため、平成 31 年 3 月に策定した川越市自殺対策計画（平成 31 年度から令和 5 年度）の見直しを進めているところです。

この調査は、川越市民の悩みやストレスに関することや、うつ病や自殺対策に関する意識について調査をすることにより、「川越市自殺対策計画」の取組みの方向性やその後の評価をするための基礎資料として活用することを目的としています。

2 調査項目

- 回答者の属性
- 自殺に関する意識について（自殺者数、自殺予防活動、相談機関への認知など）
- うつ病に関する意識について（うつ病についての認識、自殺を考えている人への対応など）
- 悩みやストレスに関すること（悩みやストレスの有無とその原因、相談相手の有無など）
- ひきこもりに関すること（ひきこもりについての認識、相談機関への認知など）

3 調査対象

川越市に在住の 18 歳以上の男女のうち、年齢階層別に無作為抽出した 3,000 人

4 調査期間

令和 4 年 9 月 1 日（木）から 9 月 25 日（日）

5 調査方法

往復郵送調査法（郵送配布、郵送回収）

6 回収結果

発送数：3,000 件 回収数：1,291 件（回収率 43.0%）

有効回答数：1,291 件（設問に 1 問でも回答があったものを有効とします）

	男			女			性別不明	回収計
	標本数	回収数	回収率	標本数	回収数	回収率	人数（人）	
年齢不明					1		9	10
80歳以上	121	76	62.8%	174	65	37.4%	2	143
70－79歳	213	139	65.3%	251	142	56.6%		281
60－69歳	187	95	50.8%	188	97	51.6%		192
50－59歳	259	103	39.8%	240	121	50.4%		224
40－49歳	274	82	29.9%	249	134	53.8%	1	217
30－39歳	207	47	22.7%	189	87	46.0%		134
20－29歳	195	29	14.9%	186	46	24.7%		75
20歳未満	34	9	26.5%	33	6	18.2%		15
計	1,490	580	38.9%	1,510	699	46.3%	12	1,291

7 報告書の見方

- ・本報告書では、回答すべき箇所が回答されていないものは「無回答」として扱います。
- ・本報告書では、回答する必要のない箇所を回答している場合は「非該当」として扱います。
- ・設問の構成比は、回答者数（該当設問での該当者数）を基数として百分率（%）で示しています。したがって非該当者数は構成比に含まれません。
- ・比率はすべて百分率（%）で表し、小数点以下第二位を四捨五入し算出しているため合計が100%にならない場合があります。
- ・選択肢の語句が長い場合、本文や図表中で省略した表現を用いている場合があります。

Ⅱ 調査結果

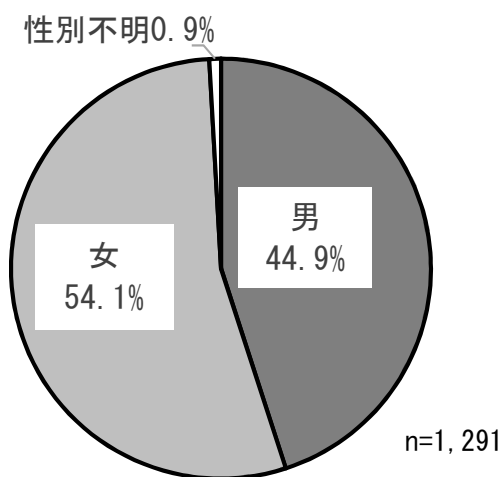
1 回答者の属性

問1 あなたの性別について伺います。(○は1つ)

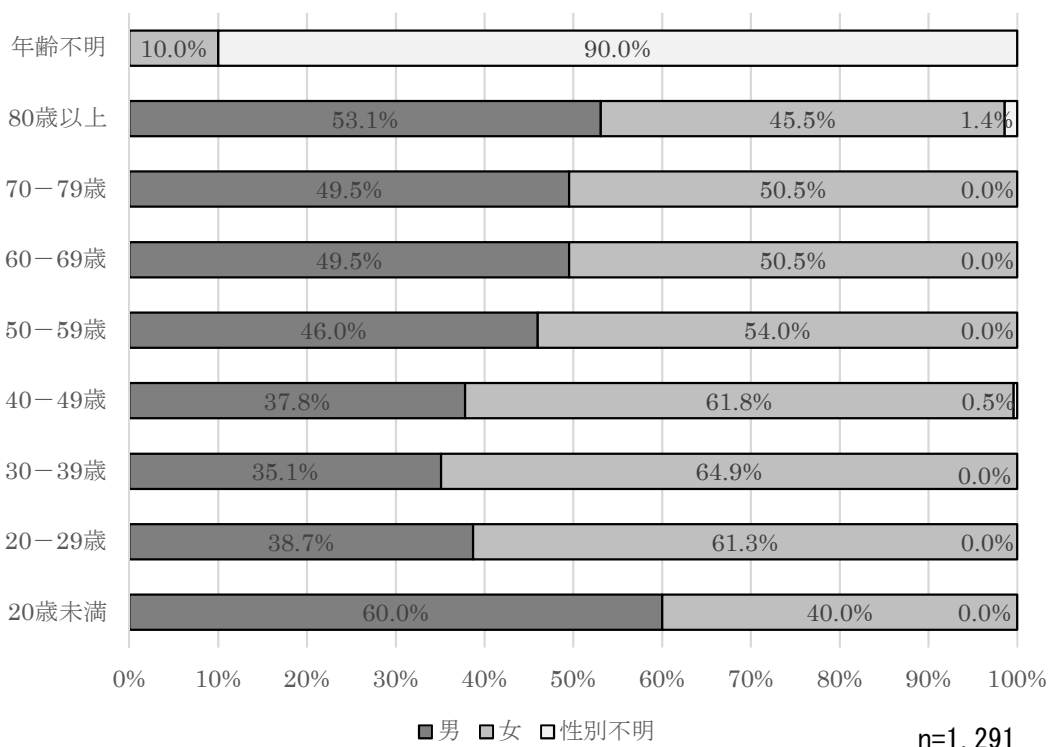
性別について「女性」が54.1%、「男性」が44.9%となっています。

回答者の年齢別の性別比では、「20-29歳」「30-39歳」「40-49歳」で男性の割合が40%未満となっています。

性別比 (%)



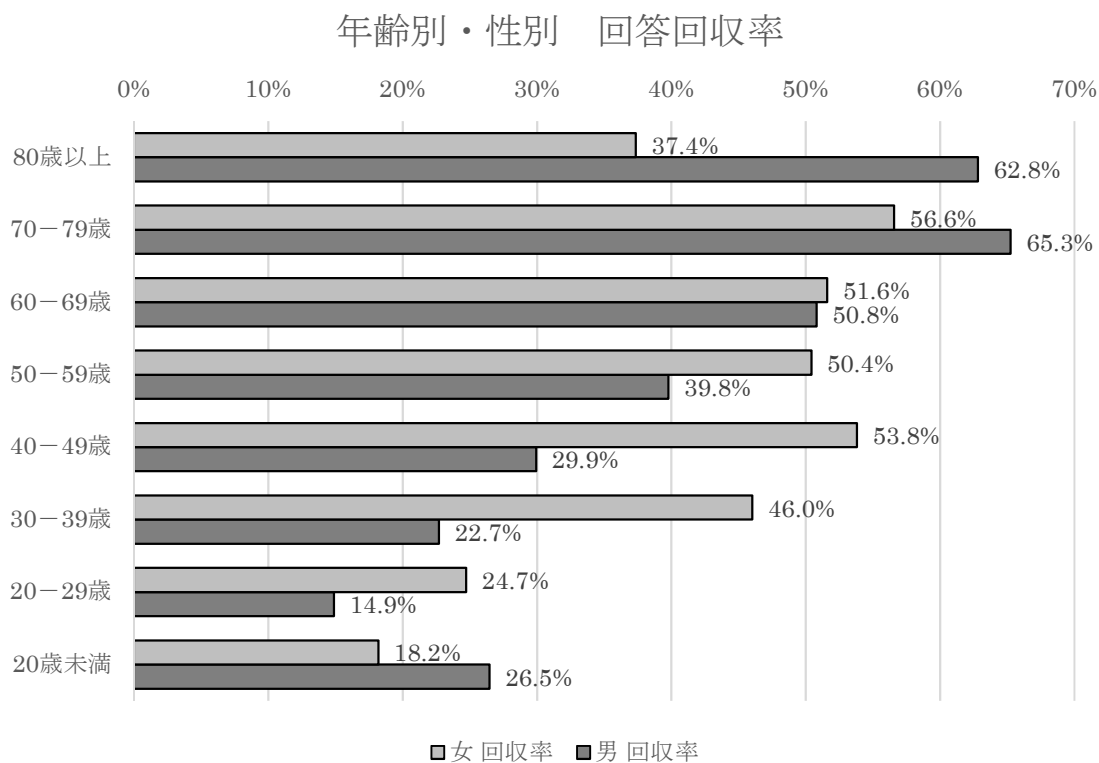
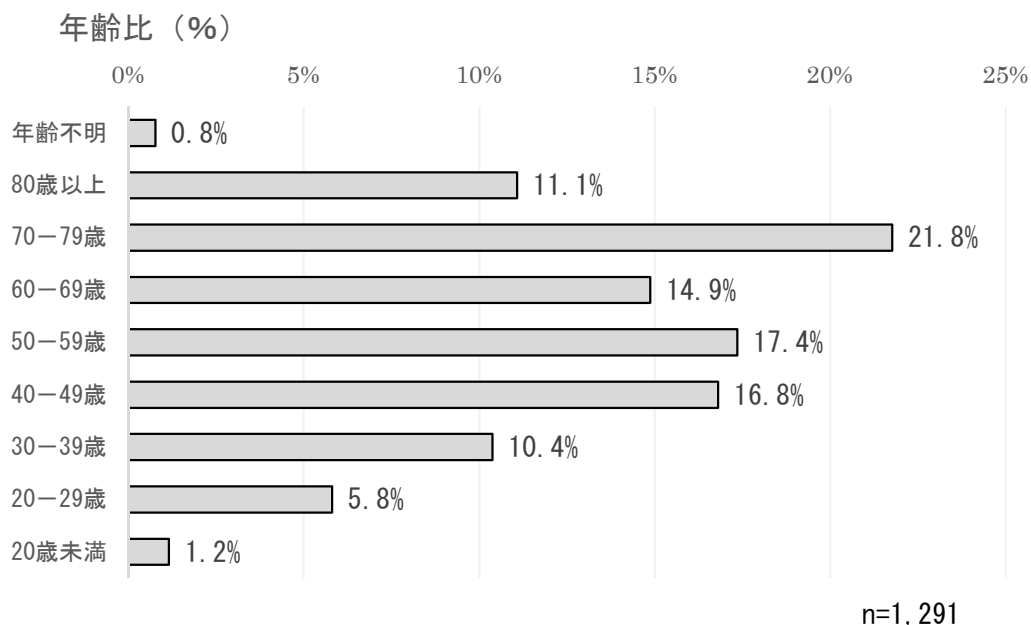
回答者の年齢別・性別比



問2 あなたの年齢は9月1日現在おいくつですか。(〇は1つ)

年齢について「70-79歳」が全体の21.8%と最も高く、次いで「50-59歳」の17.4%となっています。

回答者の年齢別の性別比では、「70-79歳」の男性が全体の65.3%、女性が全体の56.6%と最も高くなっています。

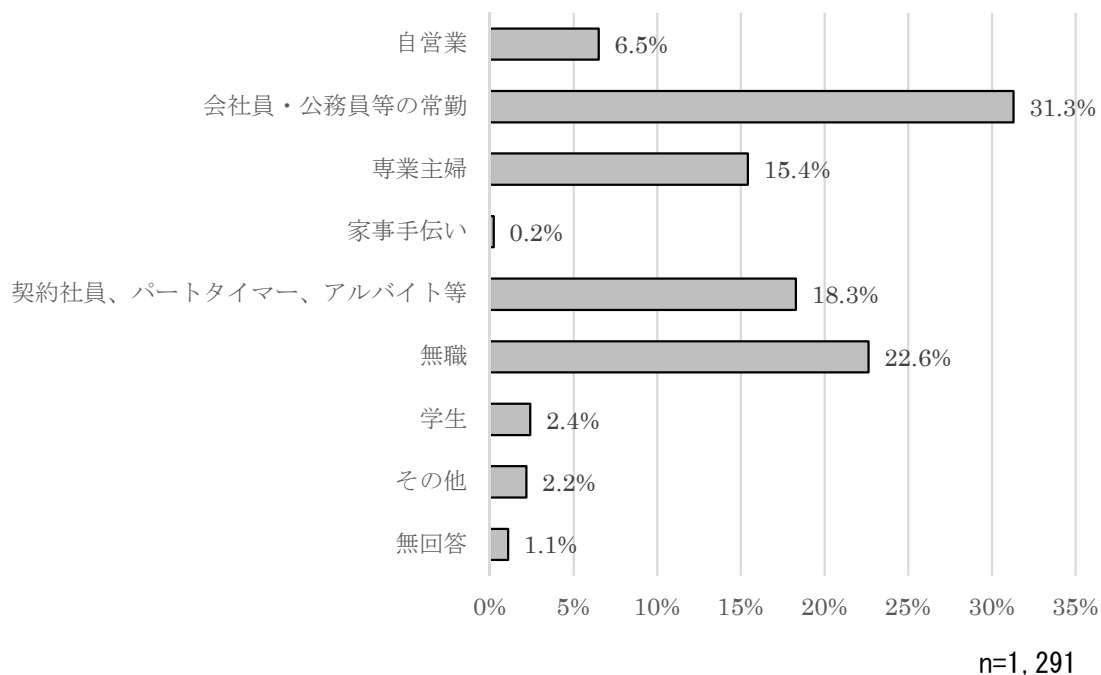


n=1,291

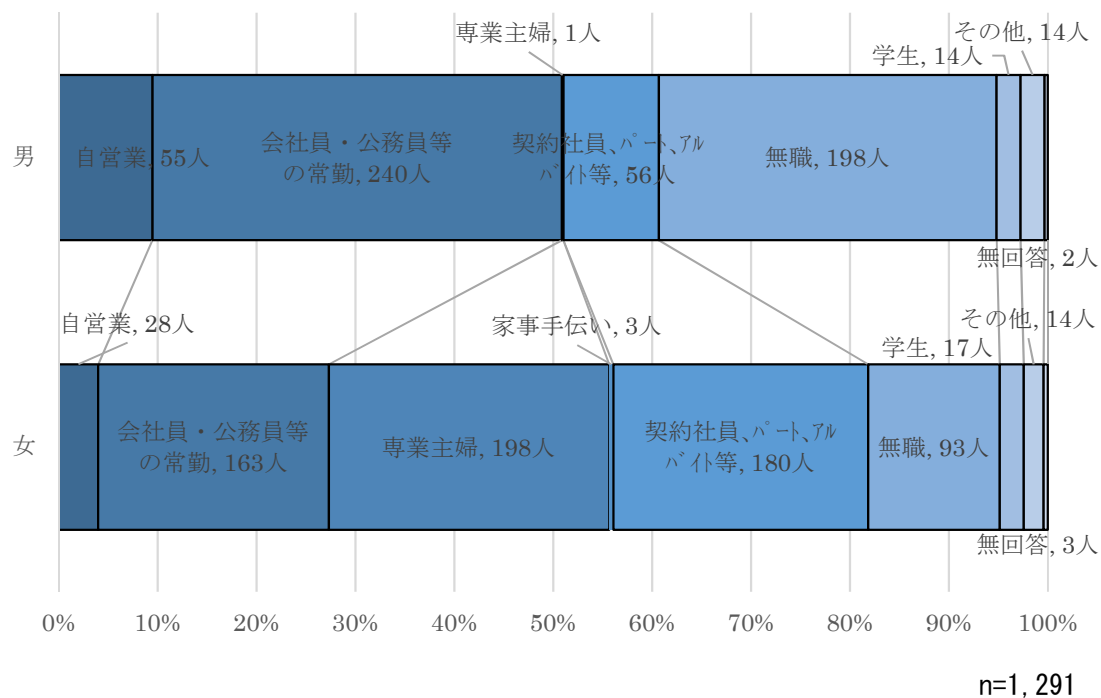
問3 あなたのご職業はなんですか。(〇は1つ)

職業について「会社員・公務員等の常勤」が全体の31.3%と最も高く、次いで「無職」が22.6%、「契約社員、パートタイマー、アルバイト等」が18.3%となっています。

また、性別では、男性は「会社員・公務員等の常勤」、「無職」、女性は「専業主婦」、「契約社員、パートタイマー、アルバイト等」の割合が高い傾向となっています。

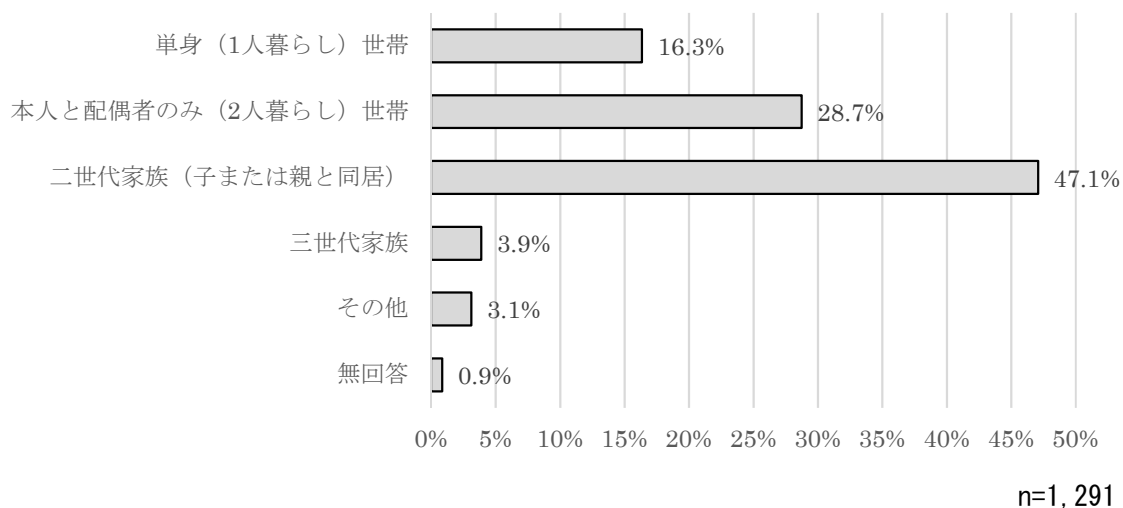


男女比

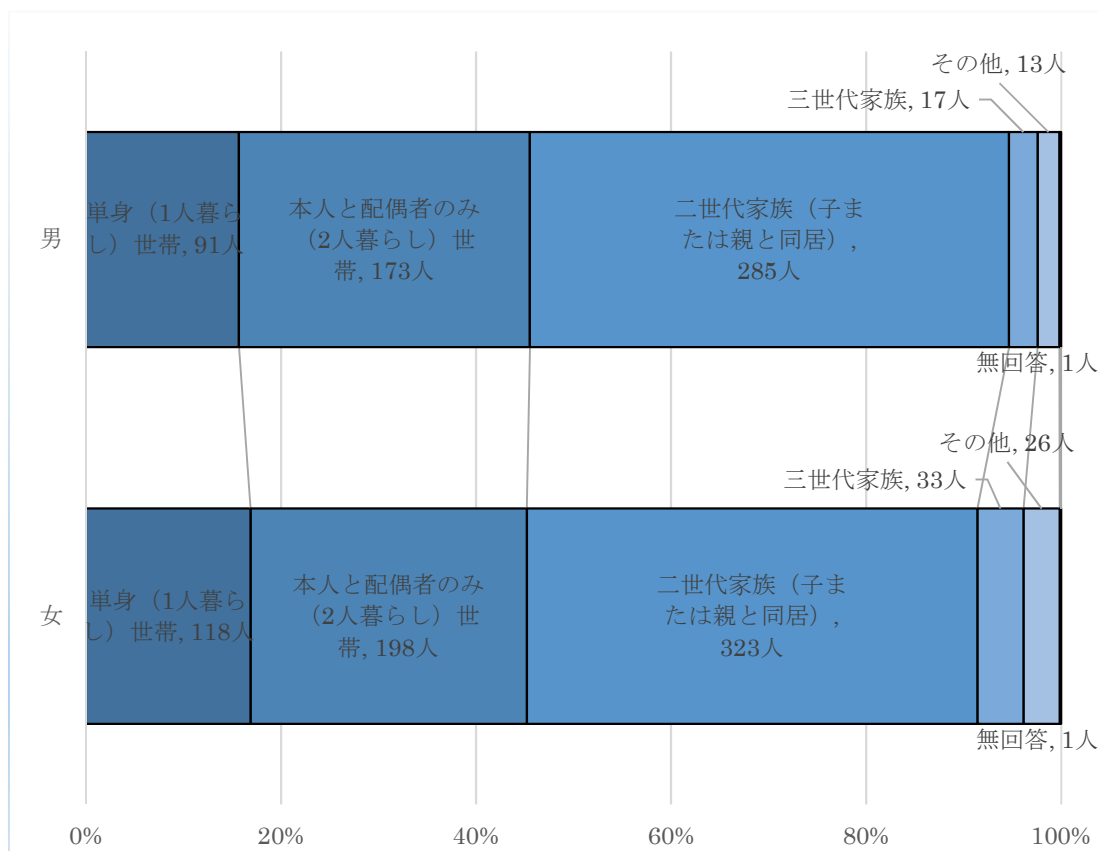


問4 あなたの家族構成を教えてください。(〇は1つ)

家族構成について「二世世代家族（子または親と同居）」が全体の47.1%と最も高く、次いで「本人と配偶者のみ（2人暮らし）世帯」が28.7%、「単身（1人暮らし）世帯」が16.3%で、男女同じ傾向となっています。



男女比

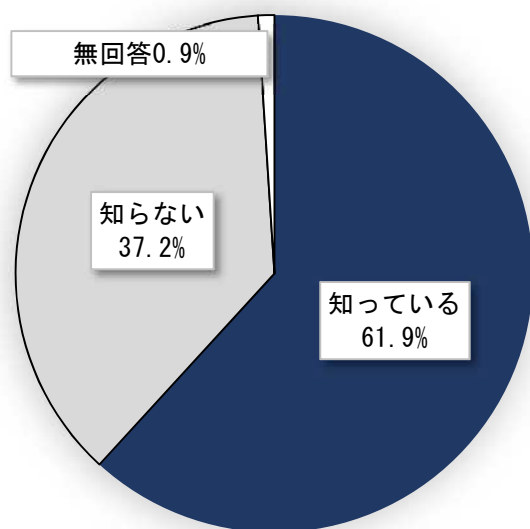


n=1,291

2 自殺に関する意識について

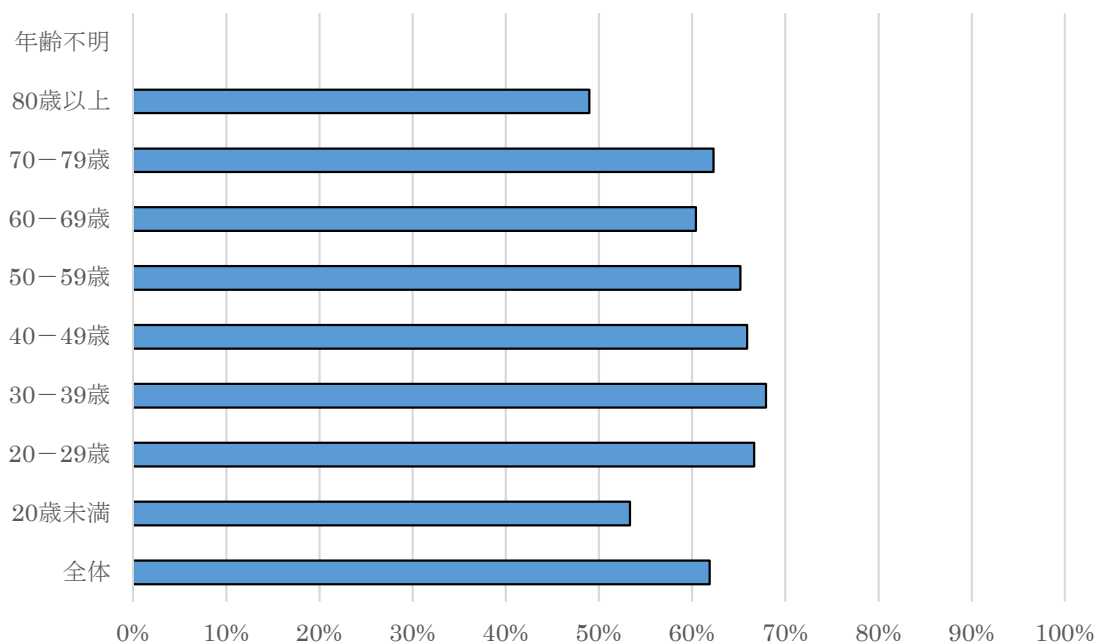
問5 わが国の自殺者数は平成10年以降3万人前後でした。令和3年には約2万1千人となっています。しかし、先進国の中では今なお、自殺率が高い状況が続いています。このことを知っていますか。(〇は1つ)

わが国の自殺死亡率が高い傾向について「知っている」と答えた方は全体の61.9%で、「知らない」は37.2%でした。年齢別の回答率で「知っている」の割合が60%に満たないのは「80歳以上」「20歳未満」となっています。



n=1,291

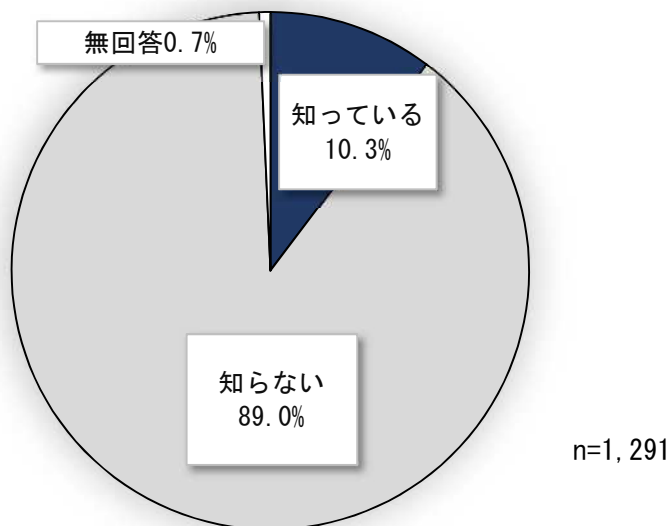
「知っている」の年齢別回答率



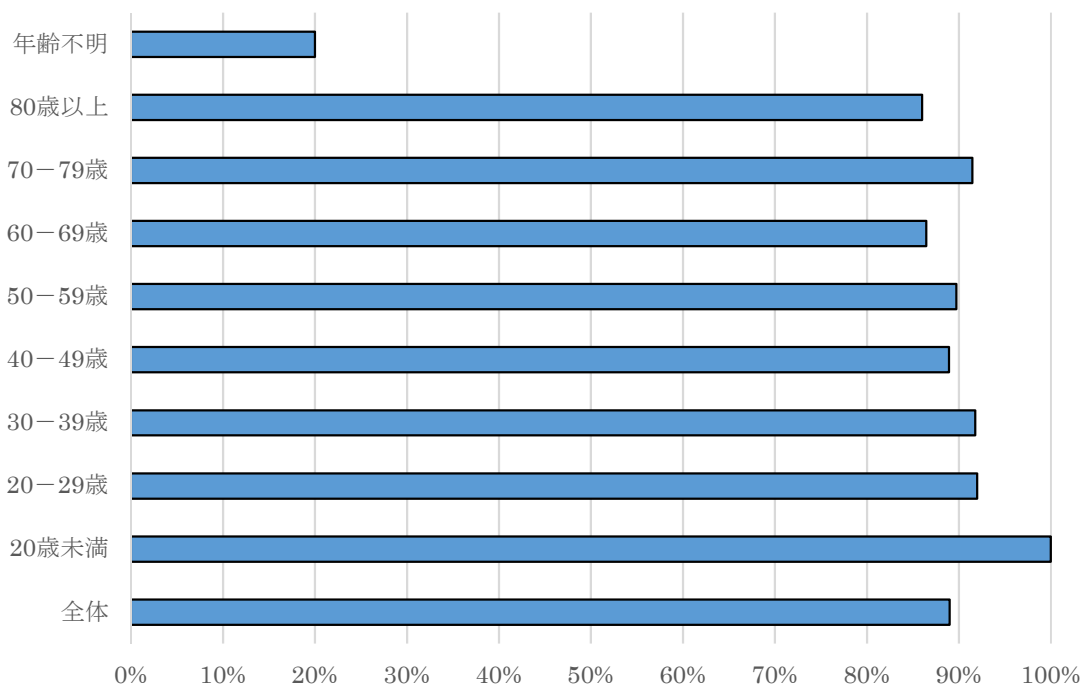
n=1,291

問6 毎年9月10日から16日までが自殺予防週間であることを知っていますか。

自殺予防週間について「知っている」と答えた方は全体の10.3%で、年齢別の回答率で「知らない」の割合は「20歳未満」を除いてどの年代でも90%前後で、「20歳未満」は100%となっています。



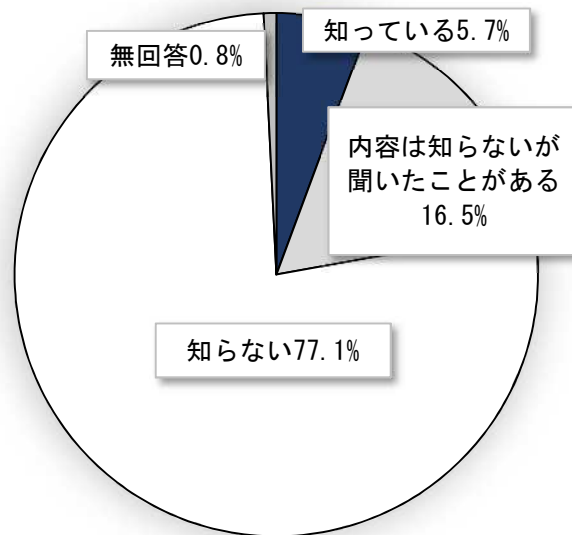
「知らない」の年齢別回答率



n=1,291

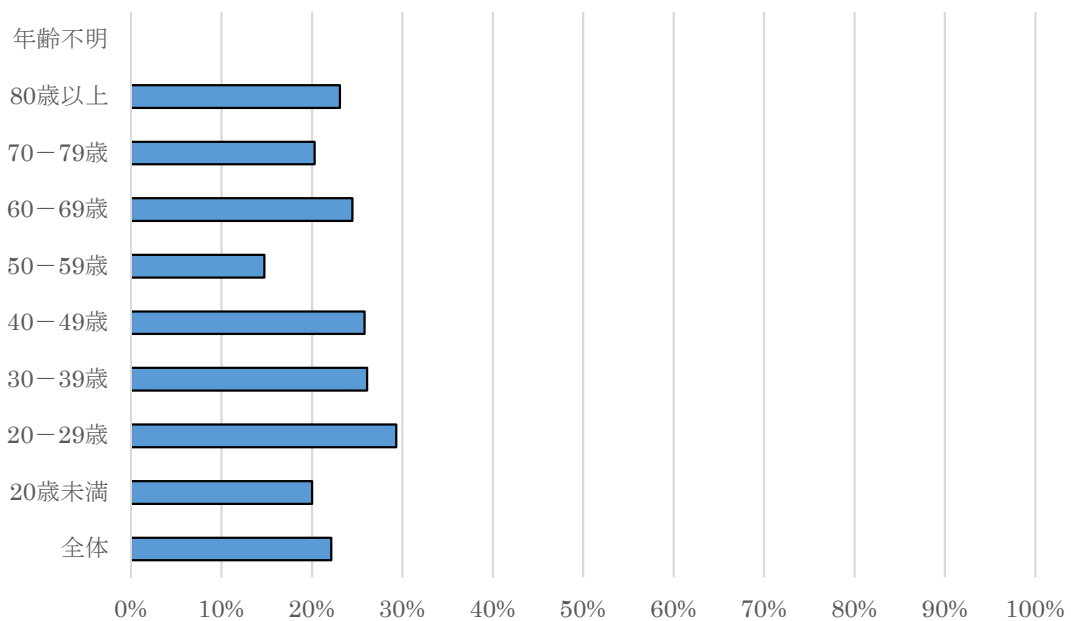
問7 自殺のサインに気づき、適切な対応を取れる人のことをゲートキーパーと呼んでいますが、知っていますか。(〇は1つ)

ゲートキーパーについて「知っている」と答えた方は全体の5.7%で、「内容は知らないが聞いたことはある」は16.5%、「知らない」は77.1%でした。年齢別の回答率で「知っている」及び「内容は知らないが聞いたことはある」の割合が20%に満たないのは「50-59歳」のみとなっています。



n=1,291

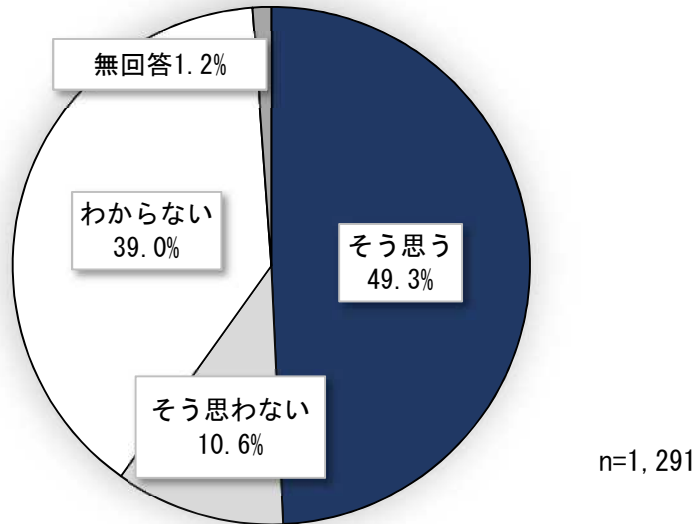
「知っている」及び「内容は知らないが聞いたことはある」の年齢別回答率



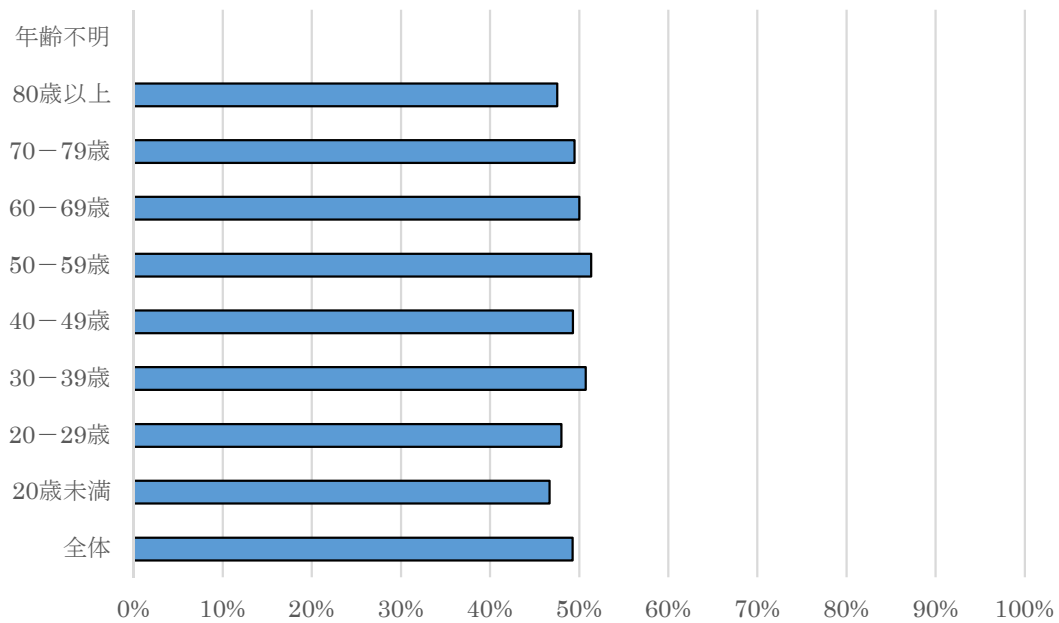
n=1,291

問8 自殺は防ぐことができますか。(○は1つ)

自殺を防ぐことができることについて「そう思う」と答えた方は全体の 49.3%で、「そう思わない」は 10.6%、「わからない」は 39.0%でした。年齢別の回答率で「そう思う」の割合はどの年代でも 50%前後となっています。



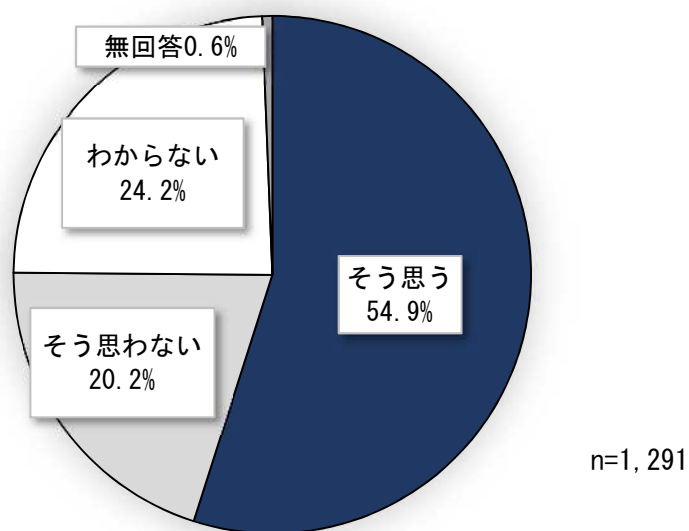
「そう思う」の年齢別回答率



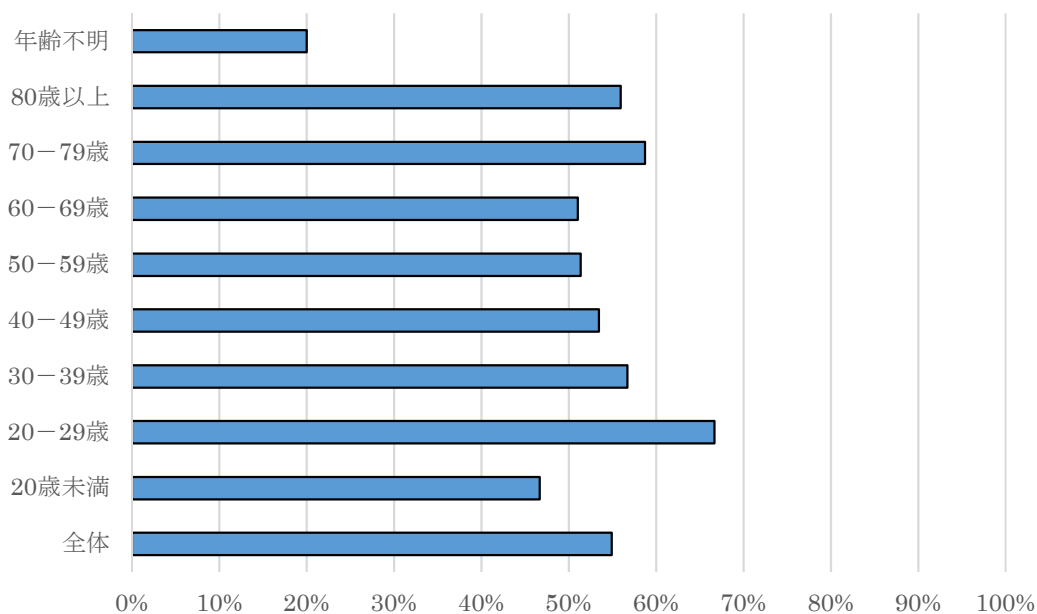
n=1,291

問9 自殺は追い込まれた末の死であると思いますか。(○は1つ)

自殺は追い込まれた末の死であるかについて「そう思う」と答えた方は全体の54.9%で、「そう思わない」は20.2%、「わからない」は24.2%でした。年齢別の回答率で「そう思う」の割合が50%に満たないのは「20歳未満」のみで、その他の年代は50%以上となっています。



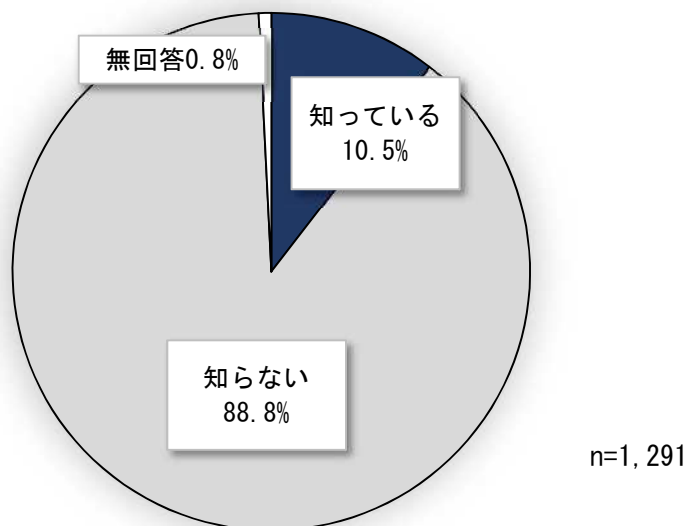
「そう思う」の年齢別回答率



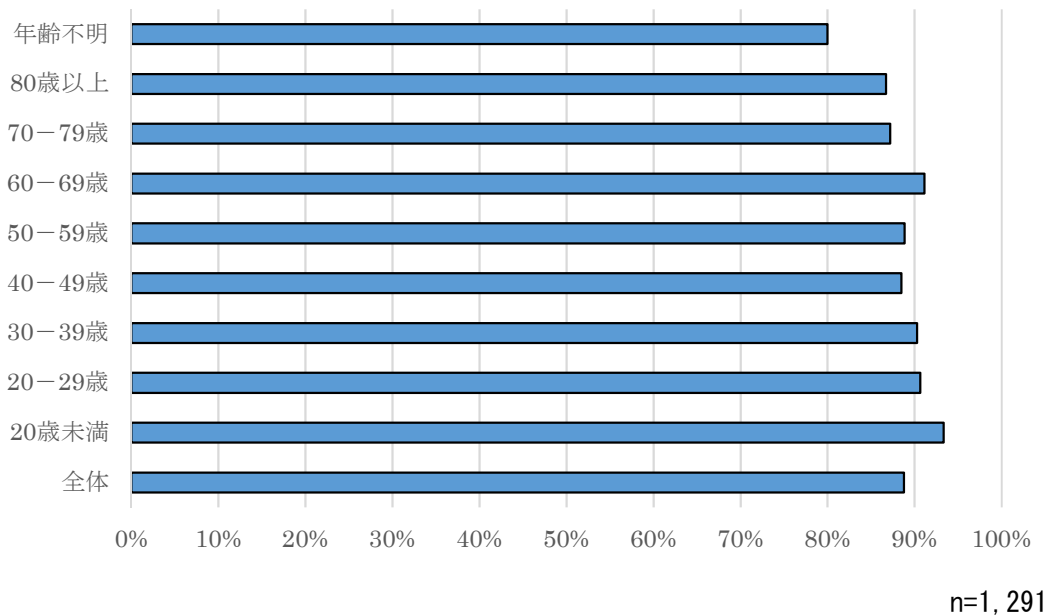
n=1,291

問10 川越市が自殺対策に取り組んでいることを知っていますか。(〇は1つ)

川越市が自殺対策に取り組んでいるかについて「知っている」と答えた方は全体の10.5%で、「知らない」は88.8%でした。年齢別の回答率で「知らない」の割合がどの年代も90%前後となっています。

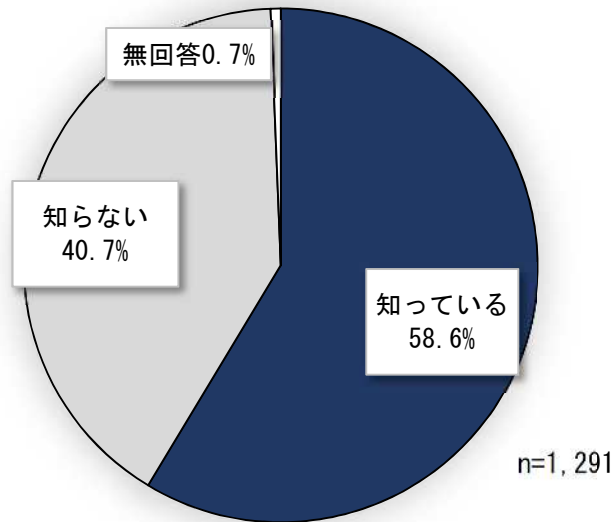


「知らない」の年齢別回答率

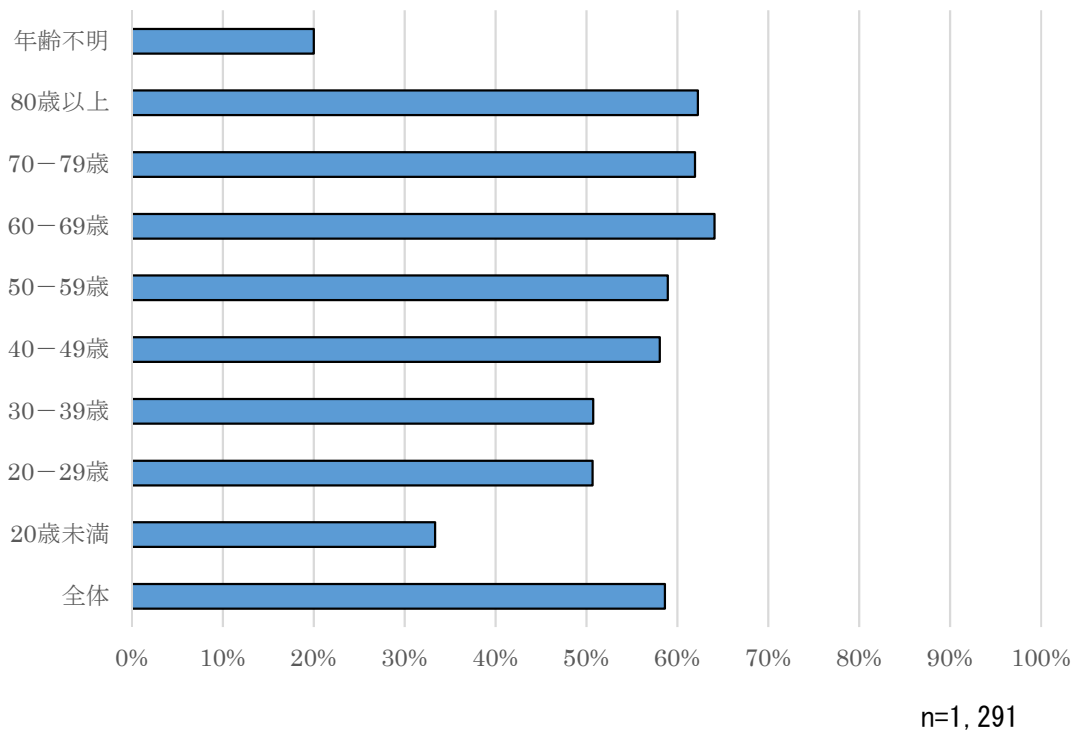


問11 市に生活（こころと体、家庭、法律、くらしなど）に関する様々な相談窓口があることを知っていますか。（○は1つ）

川越市に相談窓口があることについて「知っている」と答えた方は全体の58.6%で、「知らない」は40.7%でした。年齢別の回答率で「知っている」の割合が「40-49歳」以上の年代は60%前後で、「20-29歳」「30-39歳」は50%代、「20歳未満」は30%代となっています。

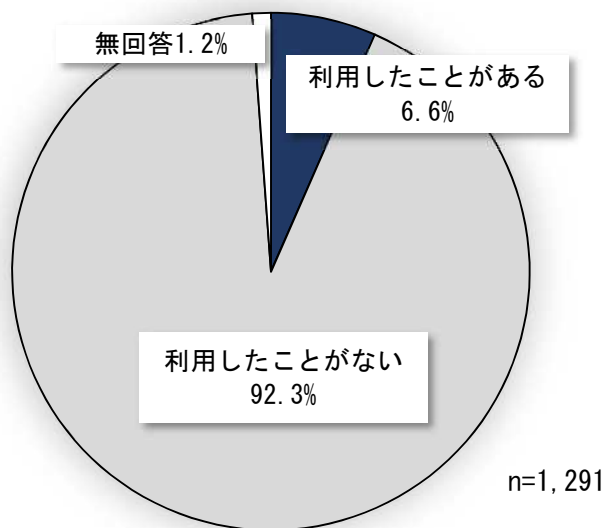


「知っている」の年齢別回答率

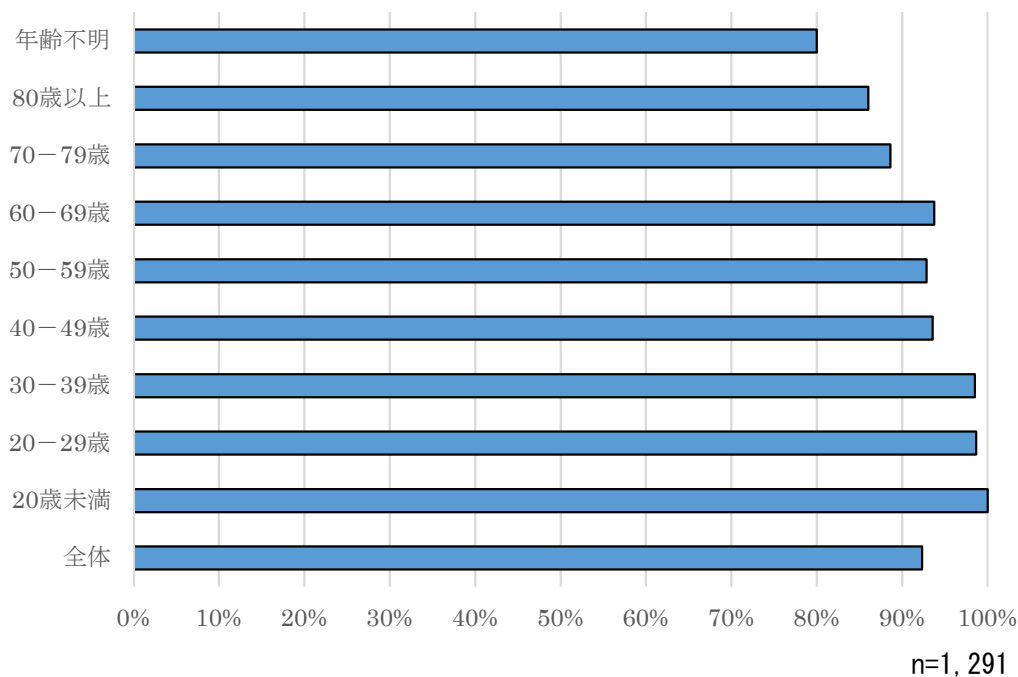


問12-1 市の相談窓口を利用したことがありますか。(〇は1つ)

市の相談窓口について「利用したことがある」と答えた方は全体の6.6%、「利用したことがない」は92.3%でした。年齢別の回答率で「利用したことがない」の割合が90%を下回るのは「80歳以上」「70-79歳」となっています。



「利用したことがない」の年齢別回答率

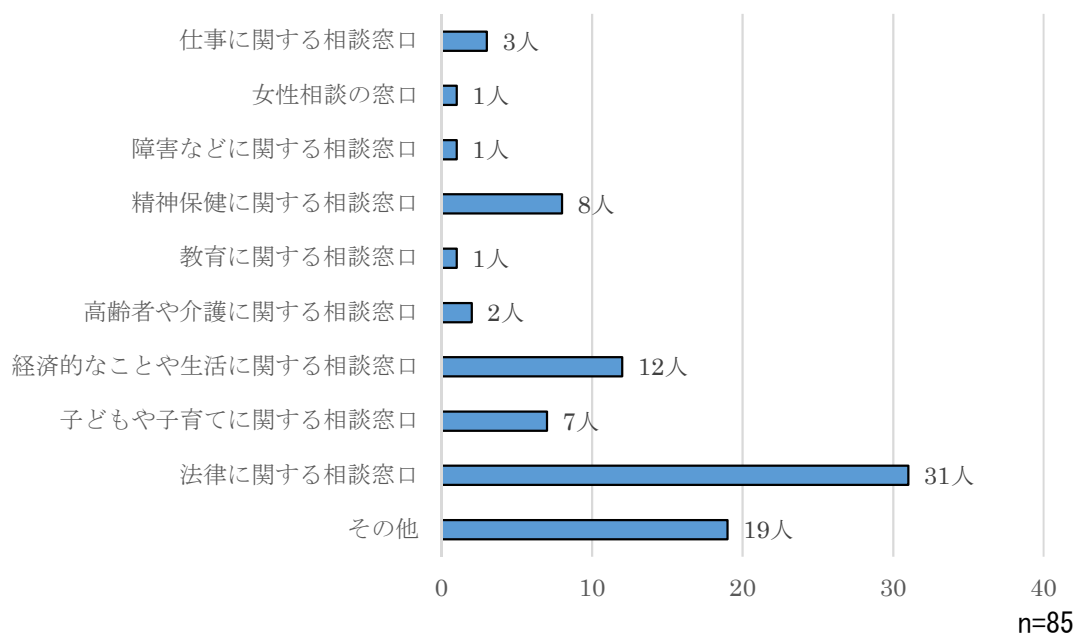


問 1 2 - 2 利用したことがあると答えた方に伺います。それはどこですか。

(具体的に記入)

相談した窓口については「法律に関する相談窓口」が最も多く、次いで「経済的なことや生活に関する相談窓口」「精神保健に関する相談窓口」「子どもや子育てに関する相談窓口」などとなっています。

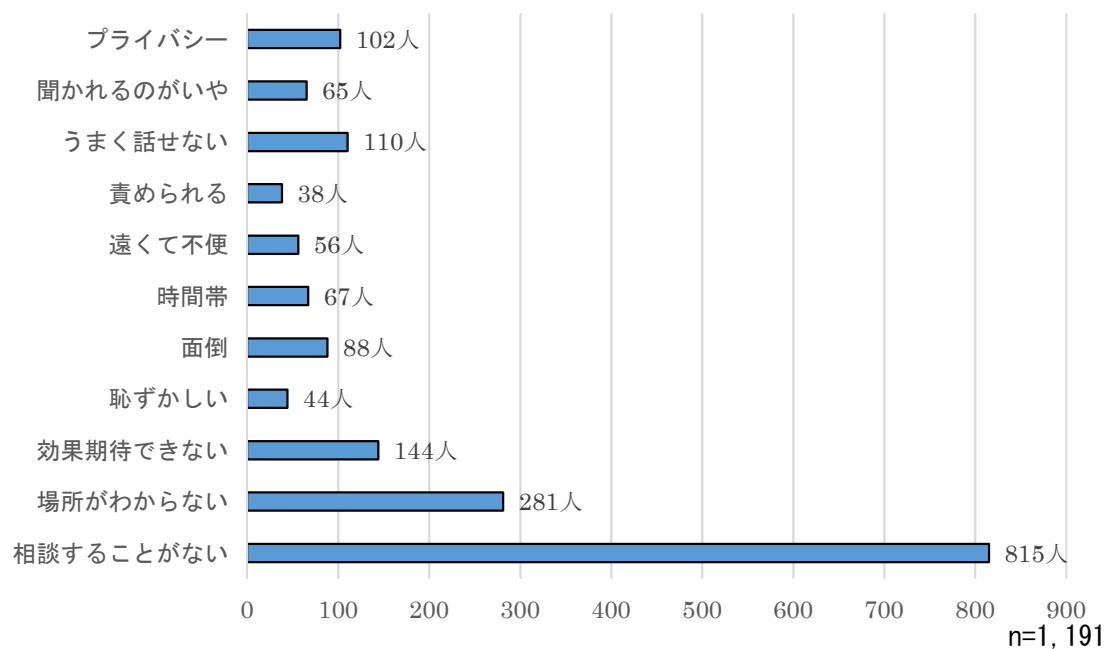
※自由記載の回答を内容別に整理



問 1 2 - 3 利用したことがないと答えた方に伺います。それはなぜですか。

(あてはまるものすべてに○)

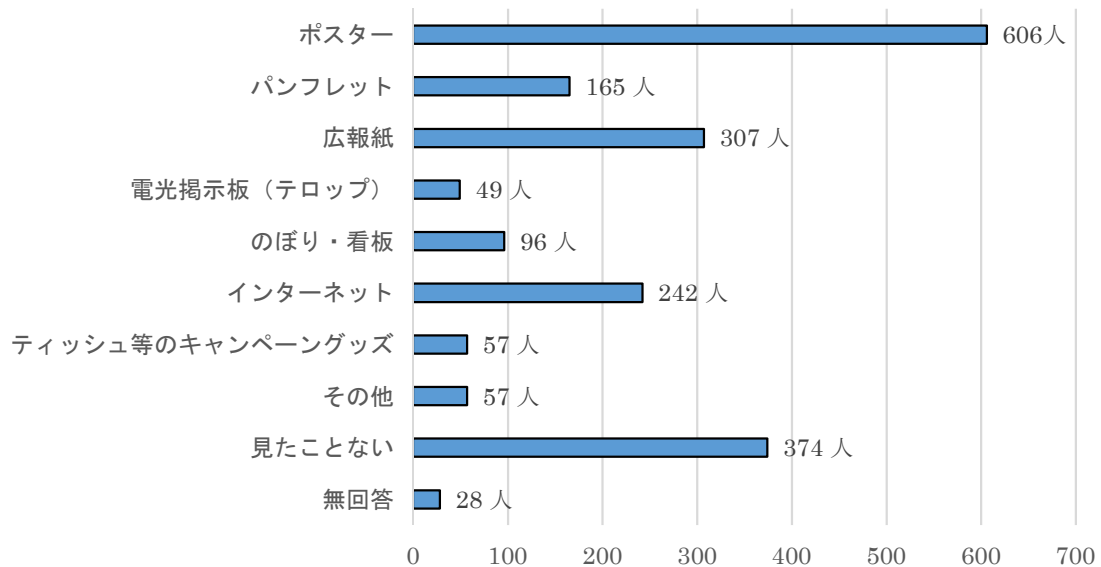
市の相談窓口を「利用したことがない」と答えた方の理由について「相談することがない」が最も多く、次いで「場所がわからない」となっています。



問13 これまで自殺対策に関する啓発物を見たことがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

自殺対策に関する啓発物について「ポスター」が最も多く、次いで「見たことがない」と答えた方が多くなっています。

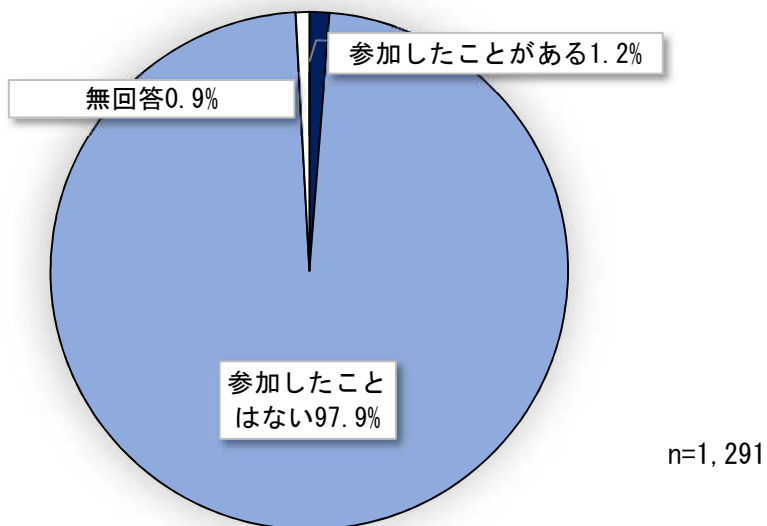


n=1,291

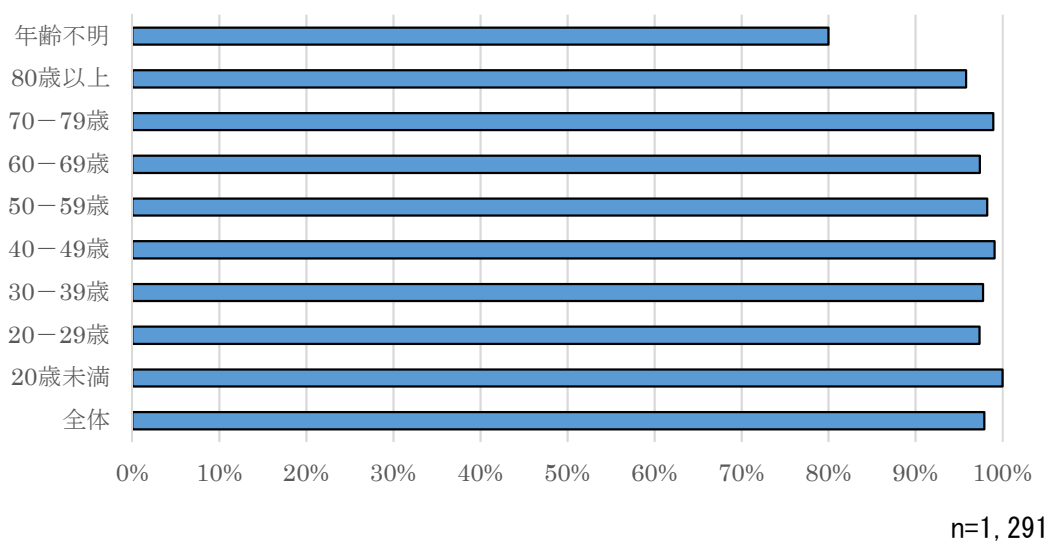
問14 自殺対策に関する講演会や講習会に参加したことがありますか。

(○は1つ)

自殺対策に関する講演会や講習会について「参加したことがある」と答えた方は全体の1.2%で「参加したことはない」が97.9%でした。年齢別の回答率で「参加したことはない」の割合は「20歳未満」以外はどの年代も90%代で、「20歳未満」は100%となっています。



「参加したことはない」の年齢別回答率

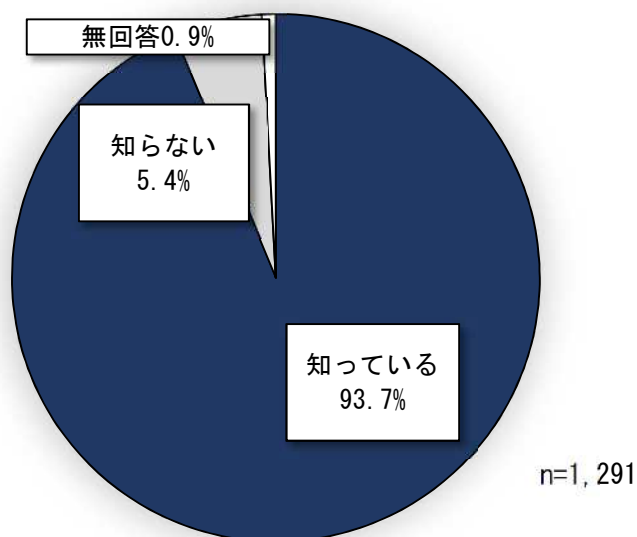


3 うつ病に関する意識について

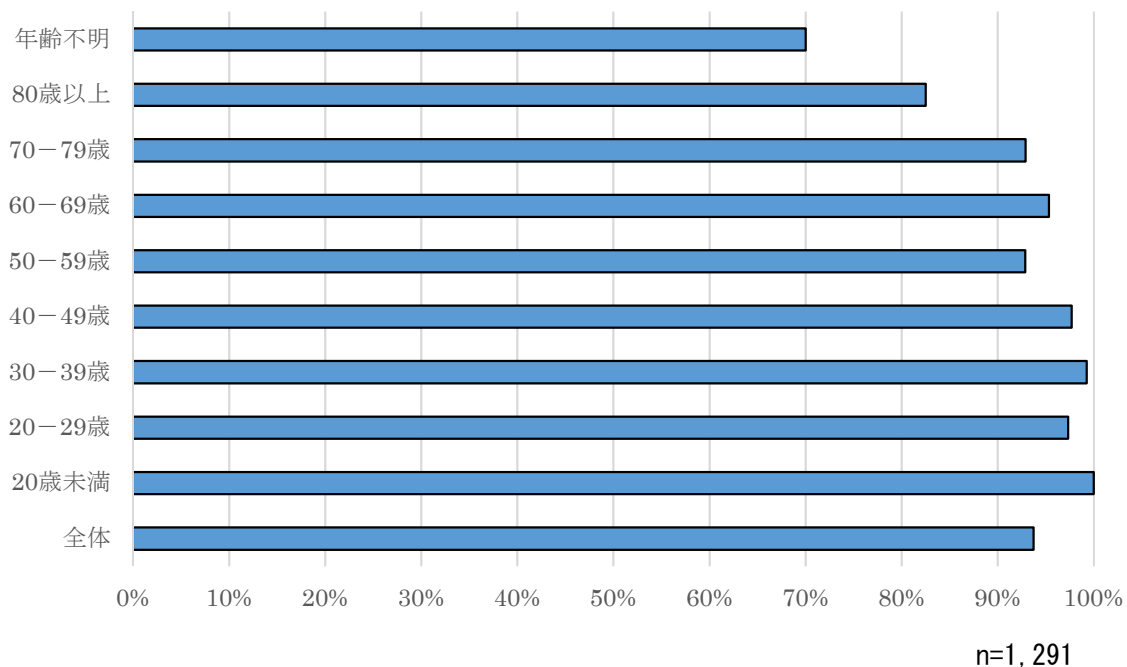
問15 うつ病は誰もがかかる可能性のある病気であると知っていますか。

(○は1つ)

うつ病は誰もがかかる可能性について「知っている」と答えた方は全体の93.7%で、「知らない」は5.4%でした。年齢別の回答率で「知っている」の割合がどの年代も80%以上となっています。

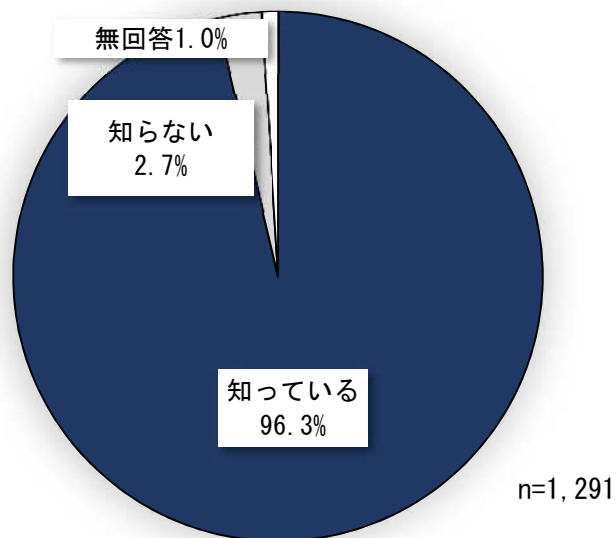


「知っている」の年齢別回答率

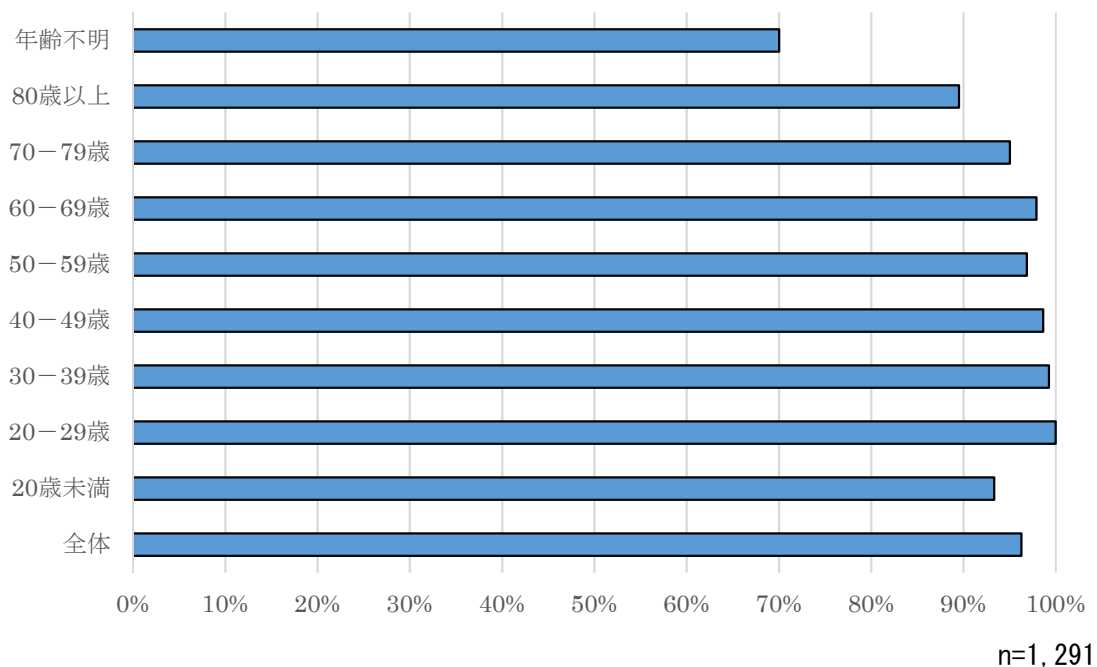


問16 うつ病は、生活苦や失業、人間関係、病気など、様々なストレスと関係があることを知っていますか。(〇は1つ)

うつ病は生活苦、人間関係など様々なストレスと関係があることについて「知っている」と答えた方は全体の96.3%で、「知らない」は2.7%でした。年齢別の回答率で「知っている」の割合はどの年代もほぼ90%代となっています。

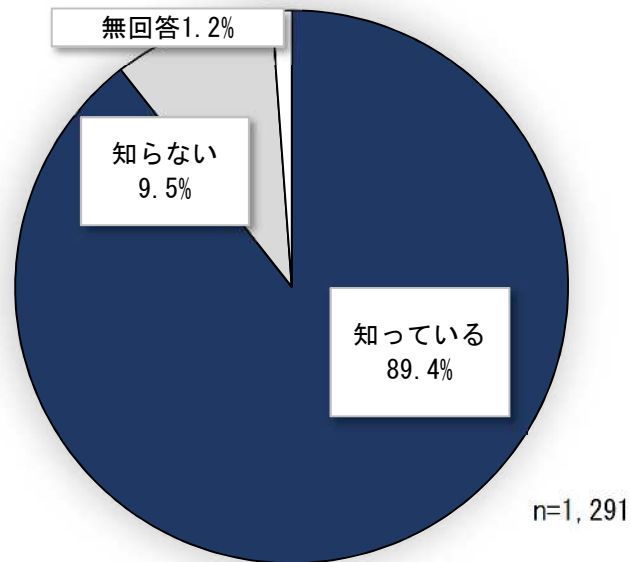


「知っている」の年齢別回答率

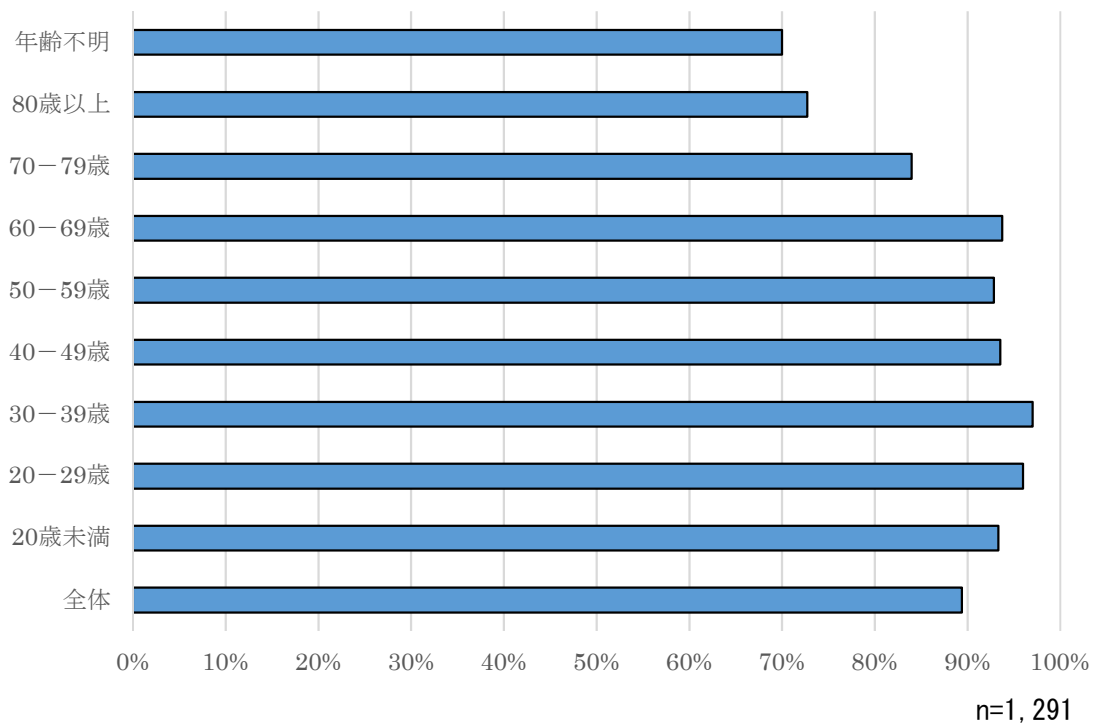


問17 うつ病は、薬の治療とともに、ゆっくり休養することが必要であることを知っていますか。(○は1つ)

うつ病は、服薬治療と休養が必要であることについて「知っている」と答えた方は全体の89.4%で、「知らない」は9.5%でした。年齢別の回答率で「知っている」の割合が70%代は「80歳以上」で、80%代は「70-79歳」となっています。その他の年代は90%以上でした。

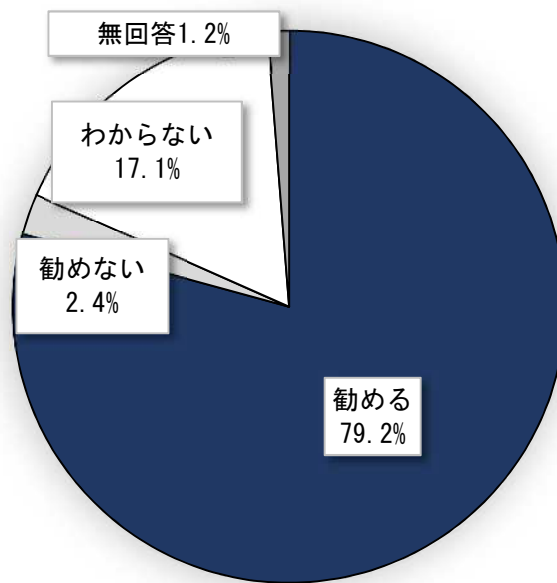


「知っている」の年齢別回答率



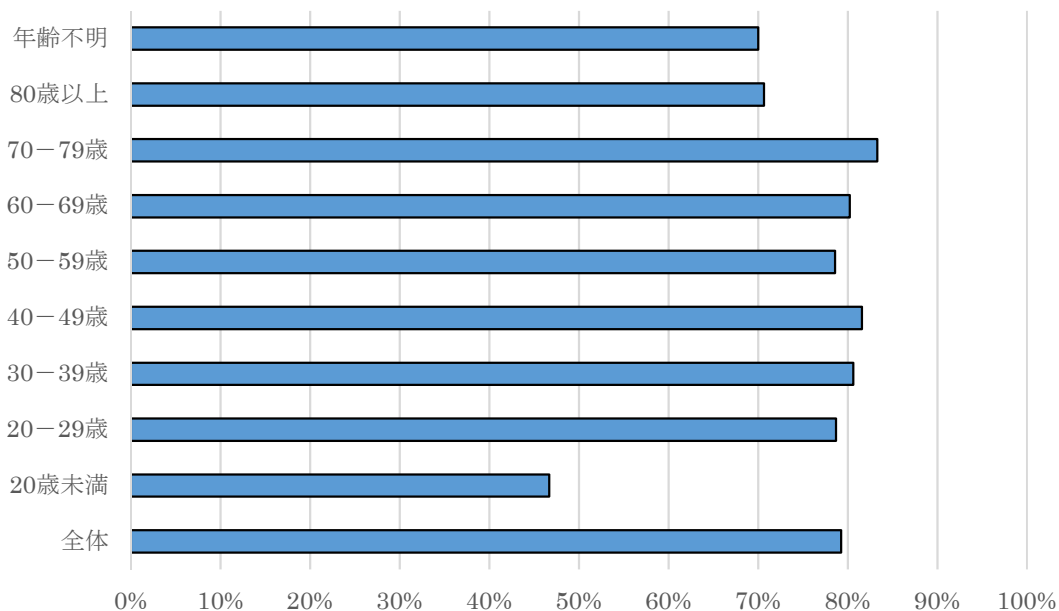
問18-1 もし仮に、あなたの家族など身近な人の「うつ病のサイン」に気づいたとき、医療機関へ相談することを勧めますか。(○は1つ)

家族のうつ病のサインに気が付いたとき医療機関を勧めるかについて「勧める」と答えた方は全体の79.2%で、「勧めない」は2.4%、「わからない」は17.1%でした。年齢別の回答率で「勧める」の割合が40%代は「20歳未満」で、その他の年代は70%以上となっています。



n=1,291

「勧める」の年齢別回答率

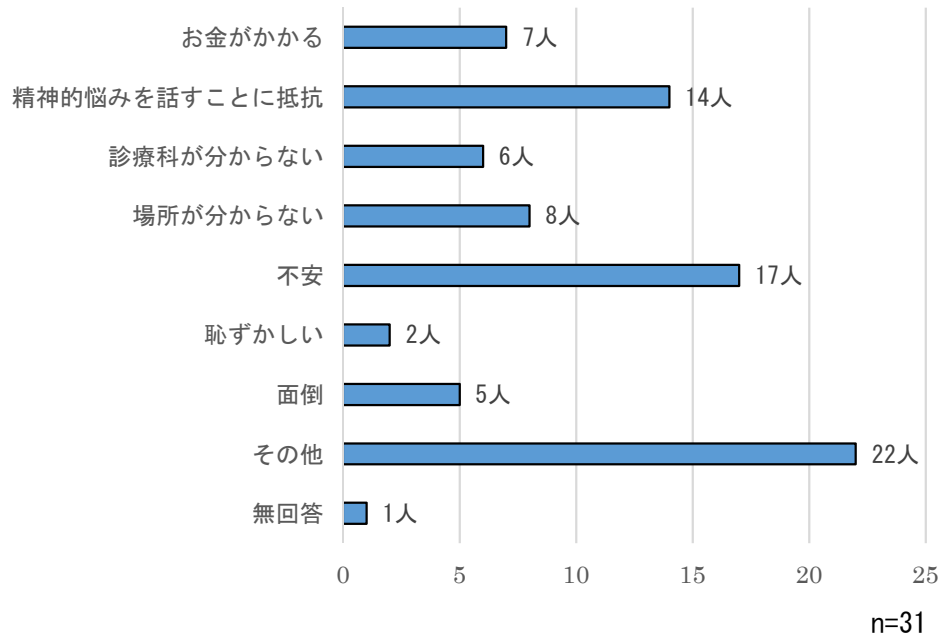


n=1,291

問18-2 「2. 勧めない」と答えた方に伺います。その理由は何ですか。

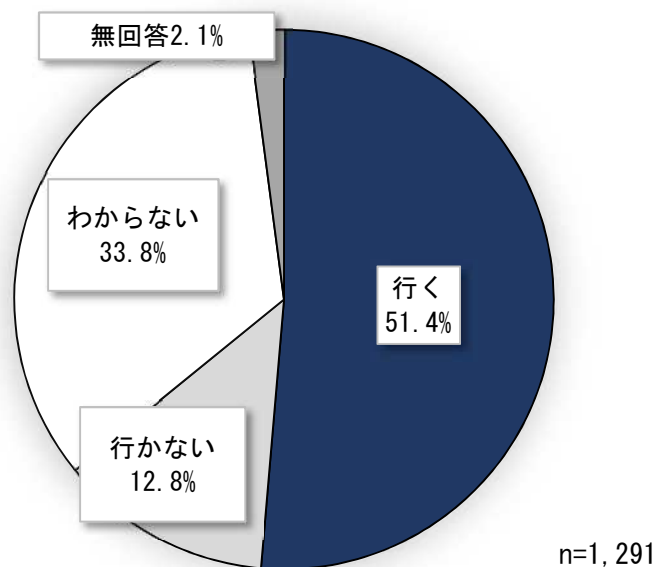
(あてはまるものすべてに○)

勧めない理由について「その他」を除き、「不安」が最も多く、次いで「精神的な悩みを話すことに抵抗がある」「場所が分からない」となっています。

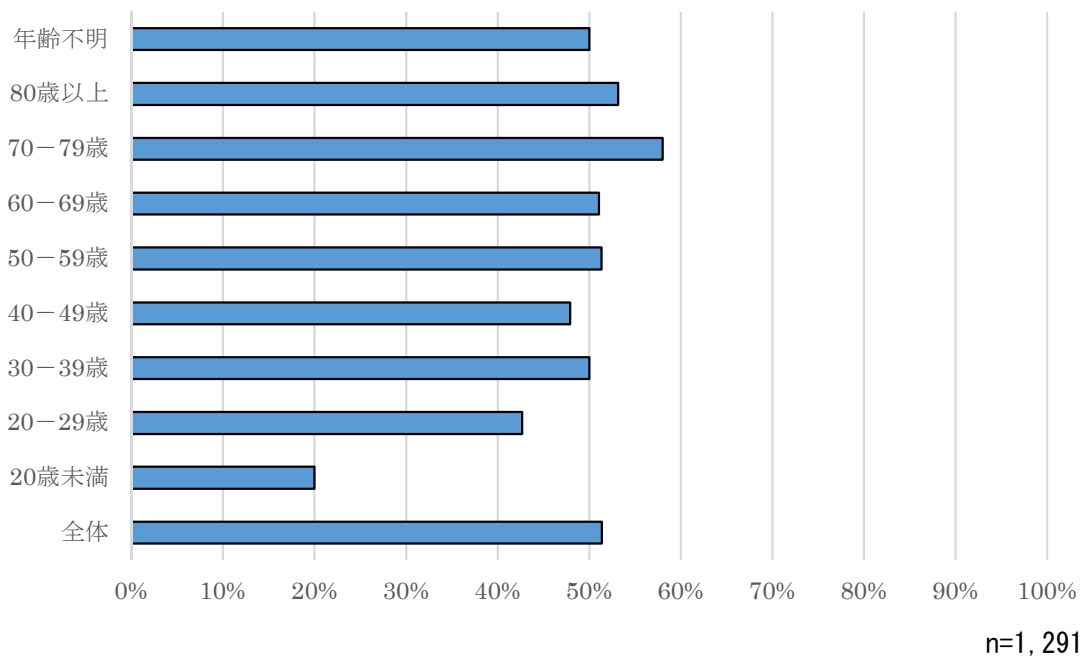


問19-1 もし仮に、あなた自身の「うつ病のサイン」に気づいたとき、自ら医療機関へ相談に行こうと思いますか。(〇は1つ)

自身の「うつ病のサイン」に気が付いたとき、医療機関に相談に「行く」と答えた方は全体の51.4%で、「行かない」は12.8%、「わからない」が33.8%でした。年齢別の回答率で「行く」の割合が50%に満たないのは「40-49歳」「20-29歳」「20歳未満」となっています。



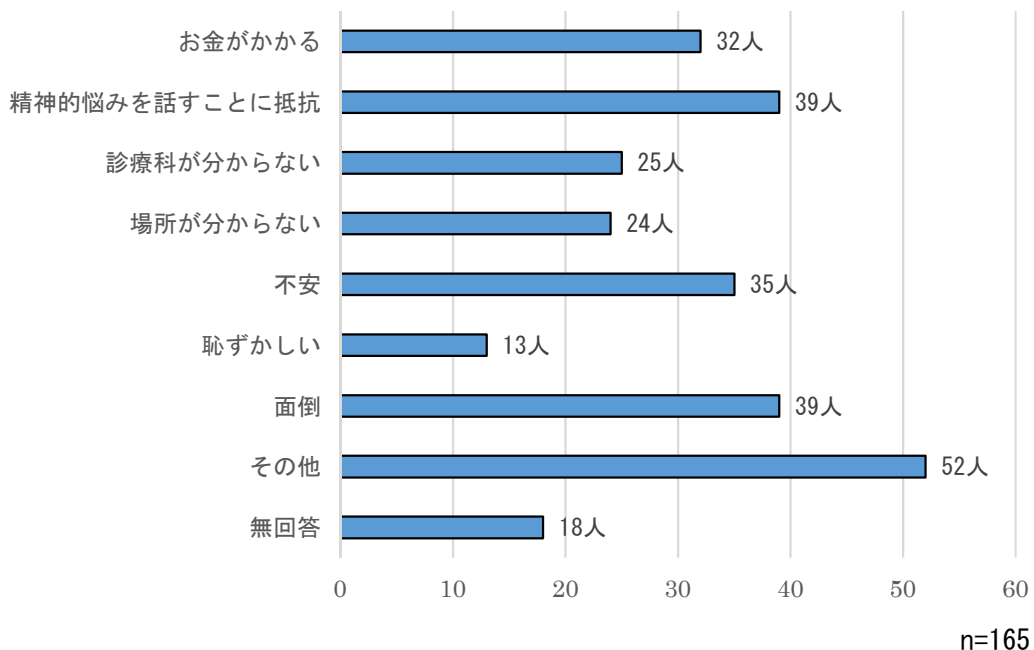
「行く」の年齢別回答率



問19-2 「2. 行かない」と答えた方に伺います。その理由は何ですか。

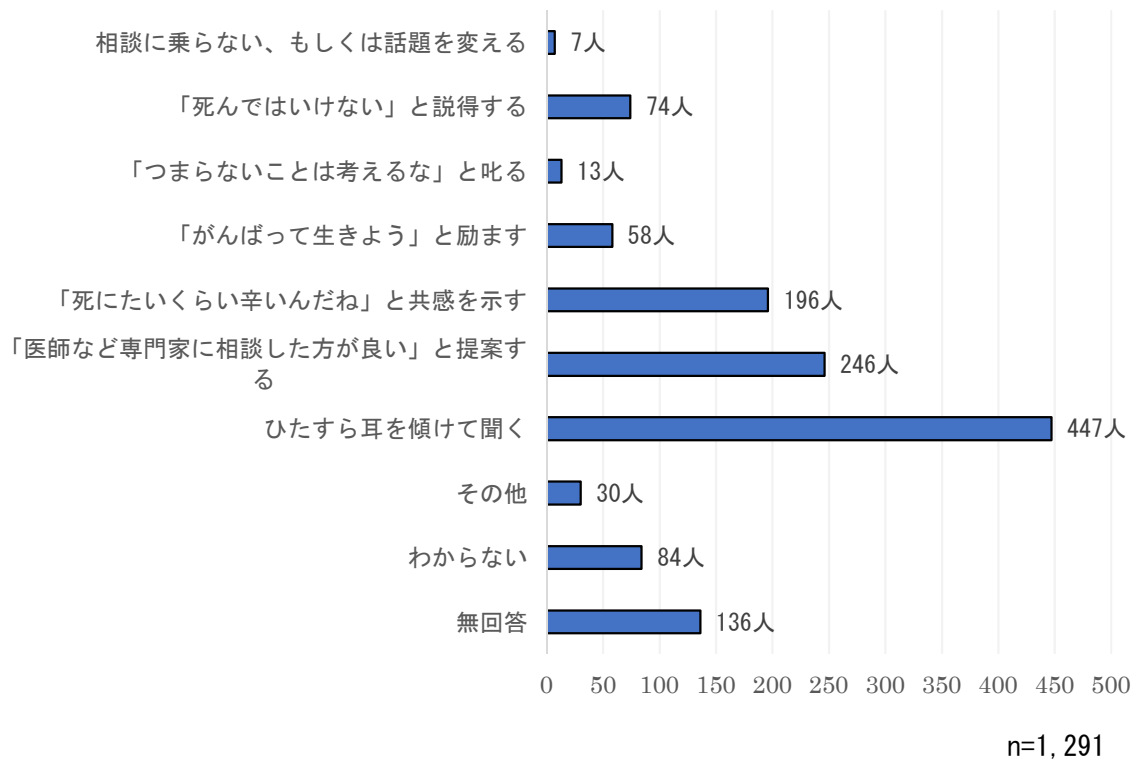
(あてはまるものすべてに○)

医療機関に行かないと答えた方の理由は「その他」を除き、「精神的悩みを話すことに抵抗あり」「面倒」が最も多く、次に多いのは「不安」、「お金がかかる」となっています。



問20 もし仮に、身近な人から「死にたい」と打ち明けられたとき、どう対応するのがよいと思いますか。(〇は1つ)

「死にたい」と打ち明けられたときの対応では「ひたすら耳を傾けて聞く」が最も多く、次いで「『医師など専門家に相談した方が良い』と提案する」、「『死にたいくらい辛いんだね』と共感を示す」となっています。



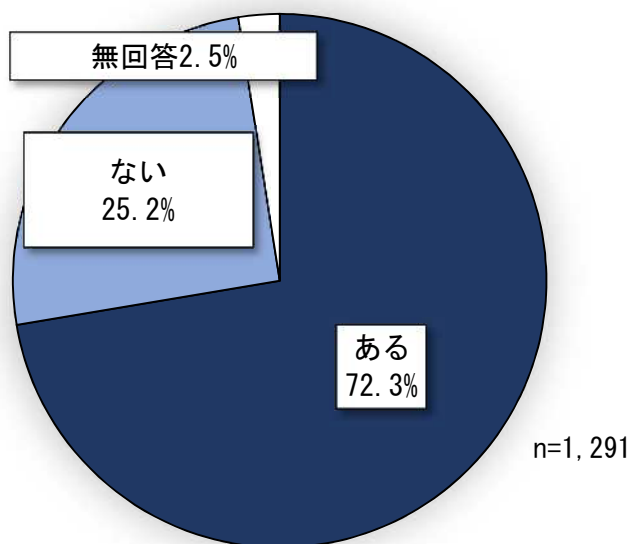
問21 これからの自殺対策について大切なものは何だと思いますか。(自由記載)

記載された自由意見を、個人情報を除き原文のまま巻末に掲載しています。

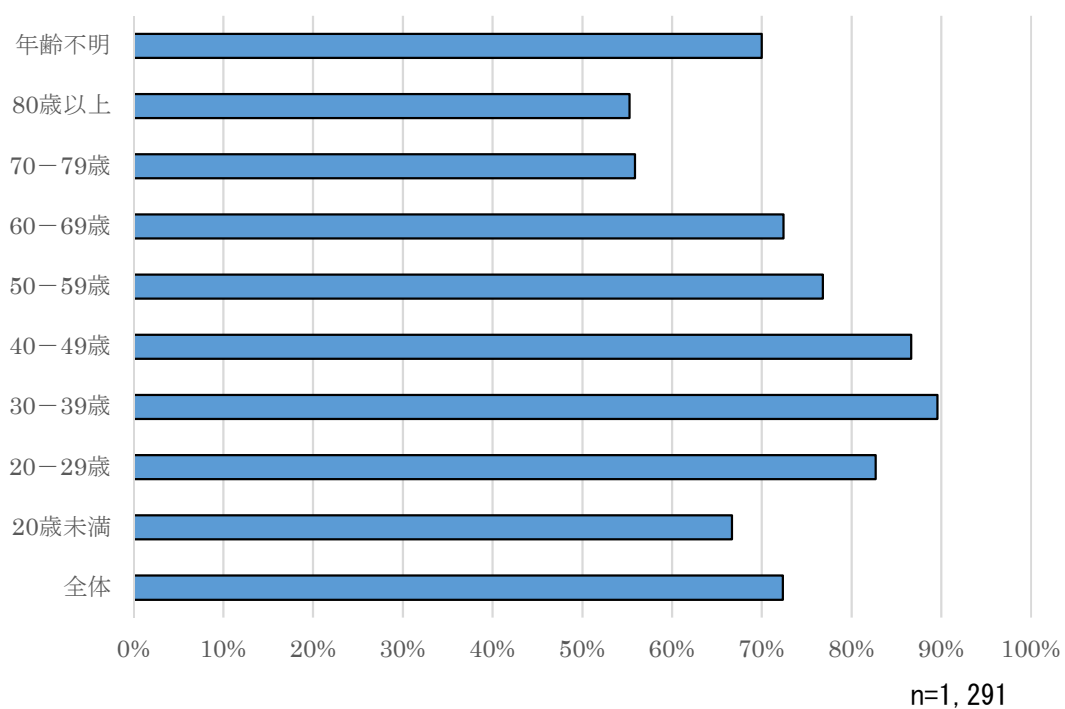
4 悩みやストレスに関すること

問22-1 日常生活での悩みやストレスはありますか。(○は1つ)

日常生活での悩みやストレスについて「ある」と答えた方は全体の72.3%で「ない」は25.2%でした。年齢別の回答で「ある」の割合が「20-29歳」から「60-69歳」は70%以上で、「70-79歳」「80歳以上」は50%代でした。

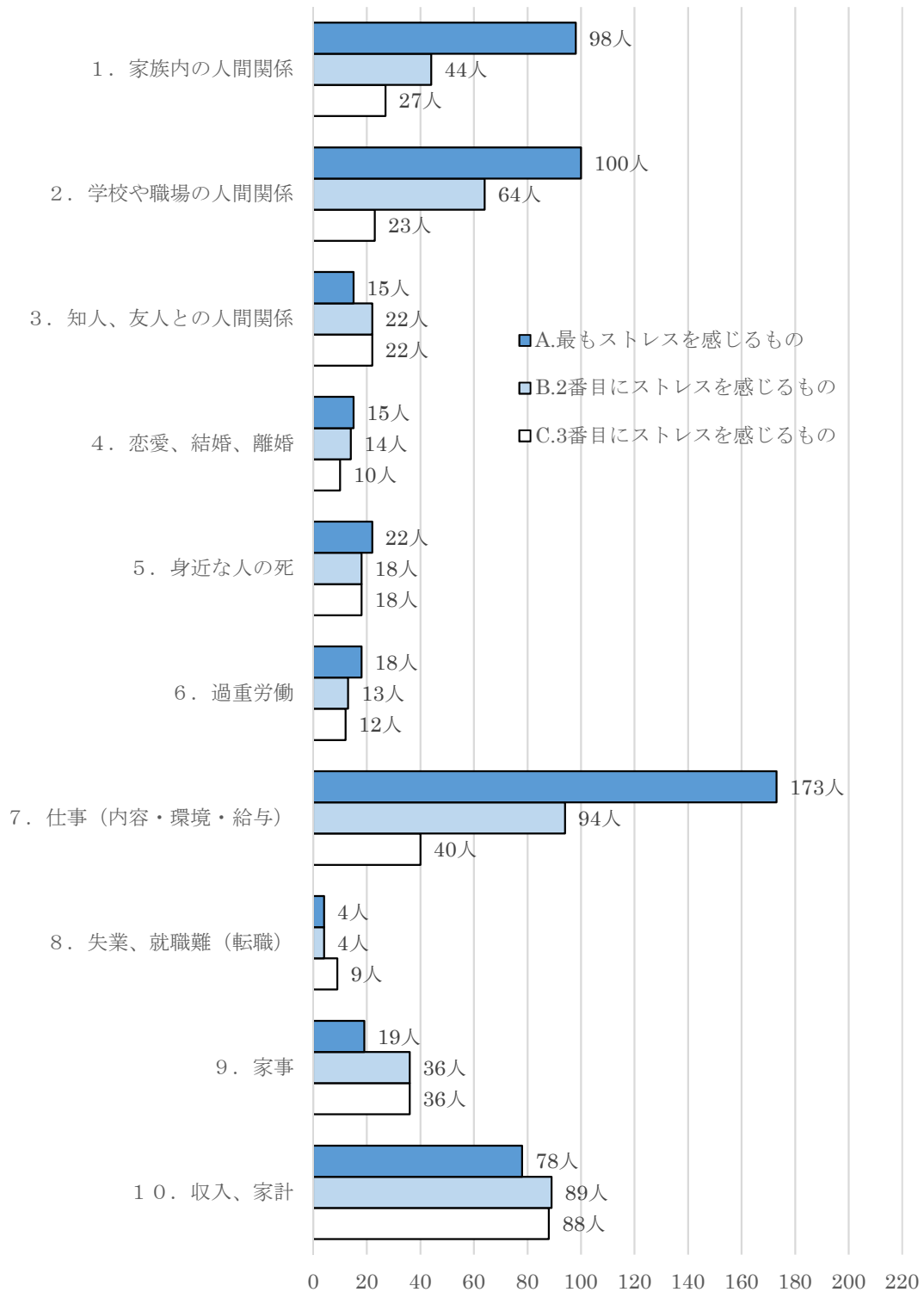


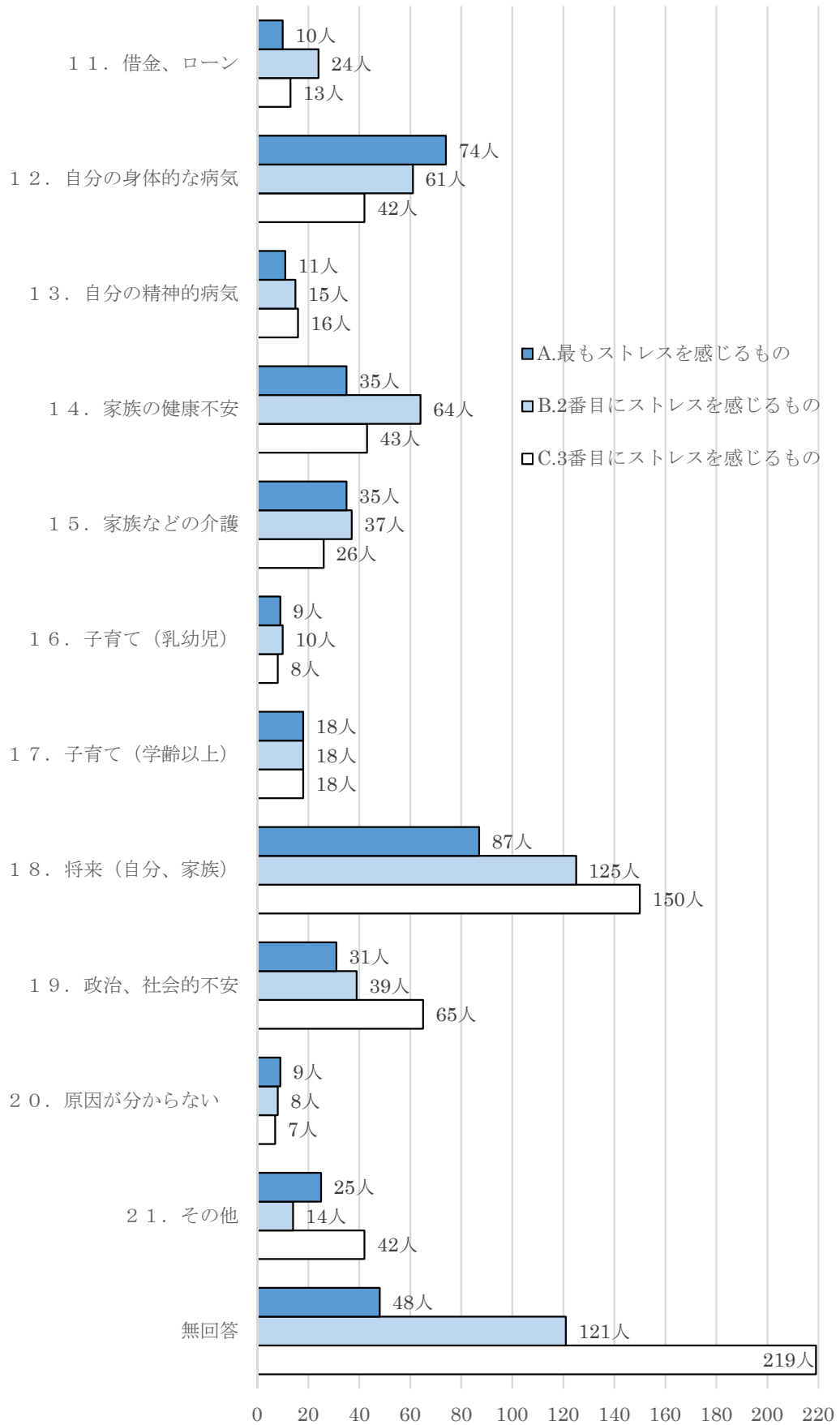
「ある」の年齢別回答率



問22-2 「ある」と答えた方に伺います。悩みやストレスの対象となるものを下から3つまで選び、A、B、C欄に番号でご記入ください。(番号を記入)

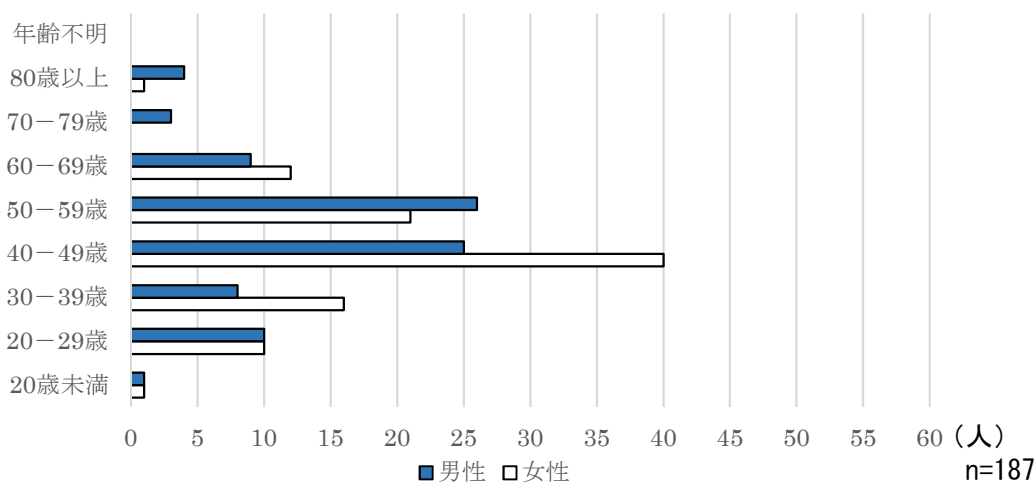
日常生活での悩みやストレスについてストレスを感じるもの(A、B、Cの回答の合計)で多いのは、「将来(自分、家族)」「仕事(内容・環境・給与)」「収入、家計」となっています。



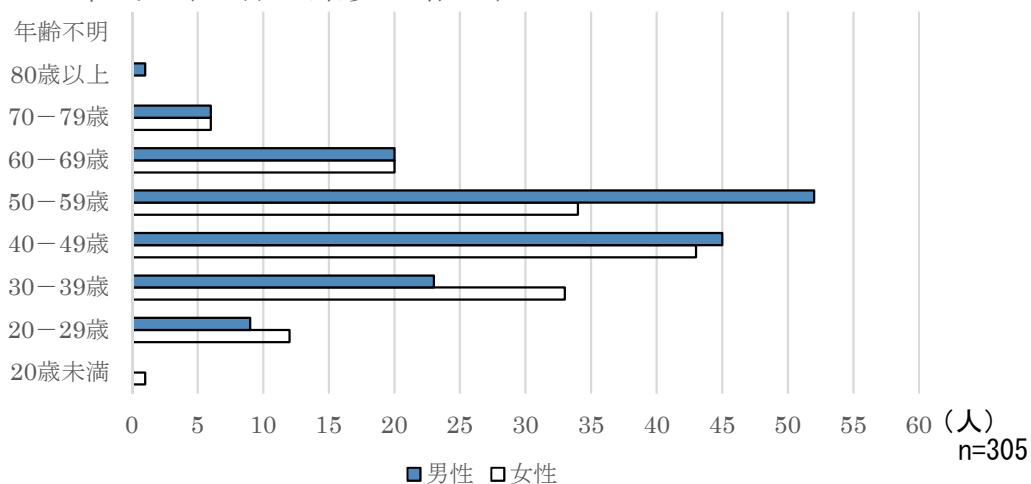


ストレスを感じるものとして回答数が多い5つについて、年齢、性別の内訳は次のとおりで、「2. 学校、職場の人間関係」と回答した方は「50-59歳」「40-49歳」が多く、性別比は「50-59歳」では男性、「40-49歳」では女性が多くなっています。「7. 仕事（内容・環境・給与）」と回答した方は「50-59歳」「40-49歳」が多く、性別比は男性が多い傾向となっています。「60-69歳」は男女ともに多くなっています。「10. 収入、家計」と回答した方は「40-49歳」「60-69歳」が多く、性別比は女性が多い傾向となっています。「12. 自分の身体的な病気」と回答した方は「70-79歳」「60-69歳」が多く、性別比は「70-79歳」では男性、「60-69歳」では女性がやや多い傾向となっています。「18. 将来（自分、家族）」と回答した方は「50-59歳」が最も多く、性別比では女性が多い傾向となっています。

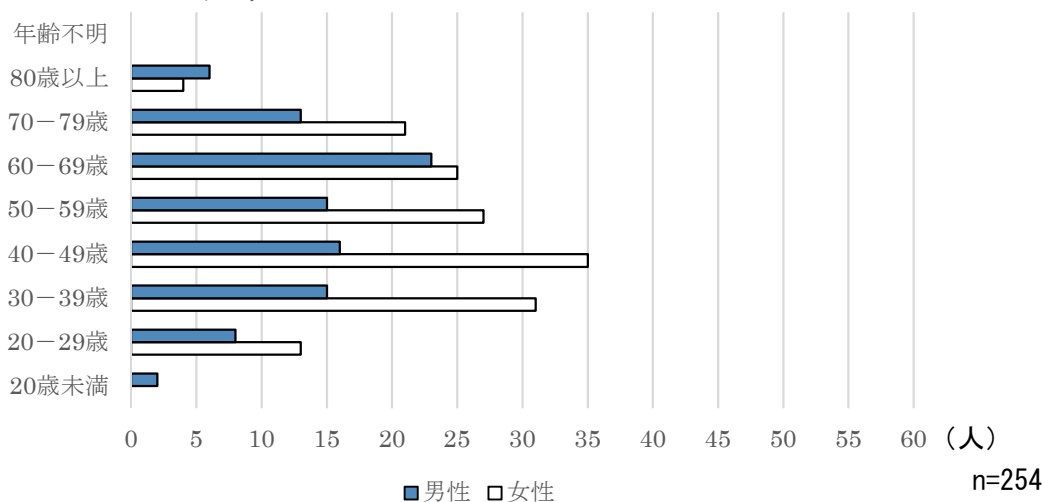
2. 学校や職場の人間関係



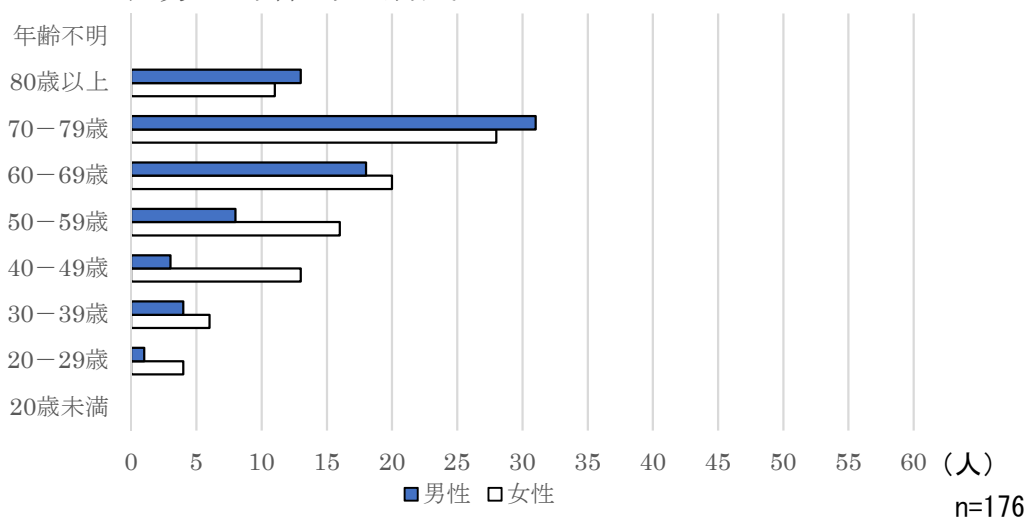
7. 仕事（内容・環境・給与）



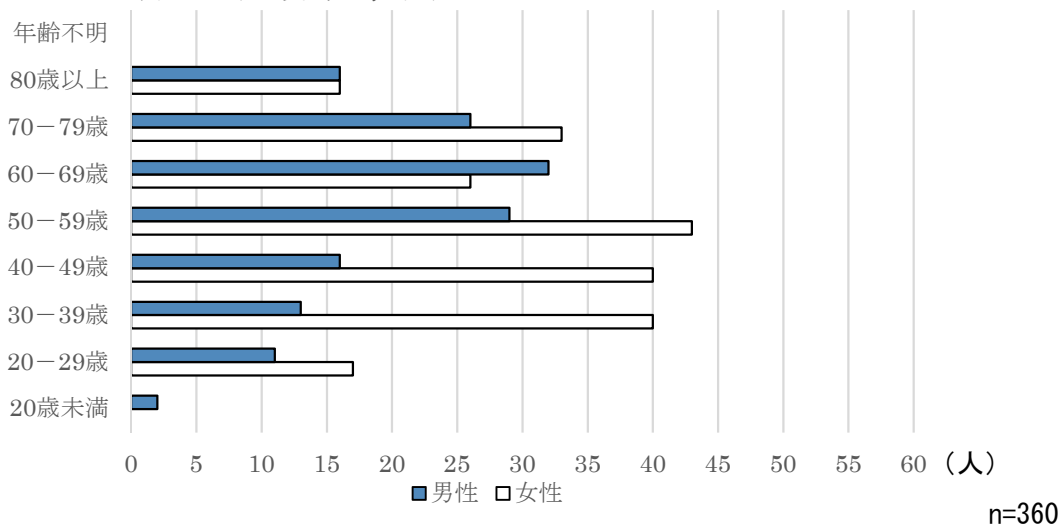
10. 収入、家計



12. 自分の身体的な病気

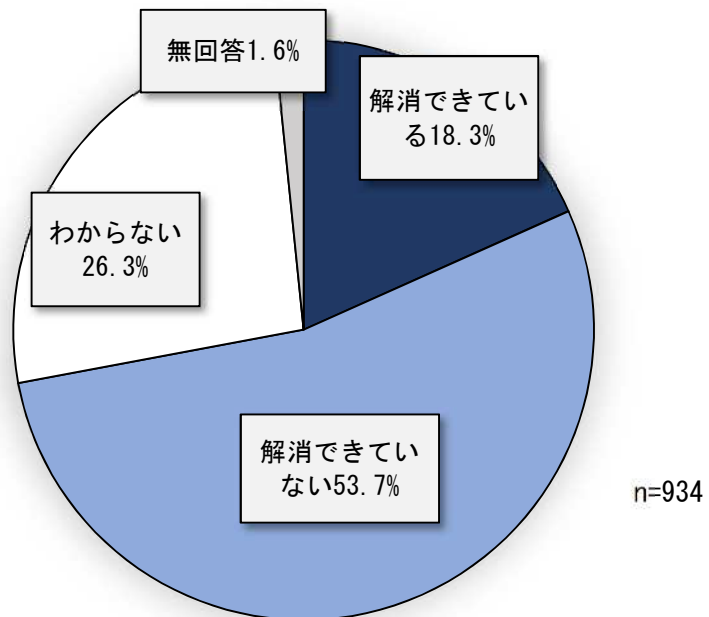


18. 将来（自分、家族）

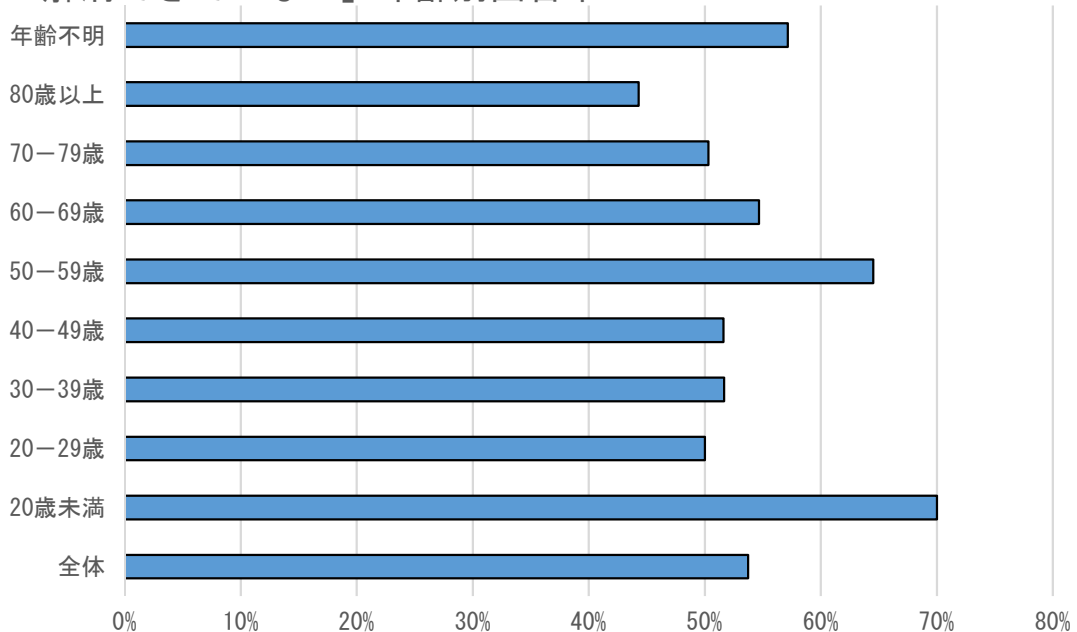


問22-3 「ある」と答えた方に伺います。ストレスは十分解消できていると感じていますか。(〇は1つ)

ストレスが解消できているかについて「解消できている」と答えた方は全体の18.3%で、「解消できていない」は53.7%、「わからない」は26.3%でした。年齢別回答率で「解消できていない」が60%を超えるのは「50-59歳」「20歳未満」となっています。

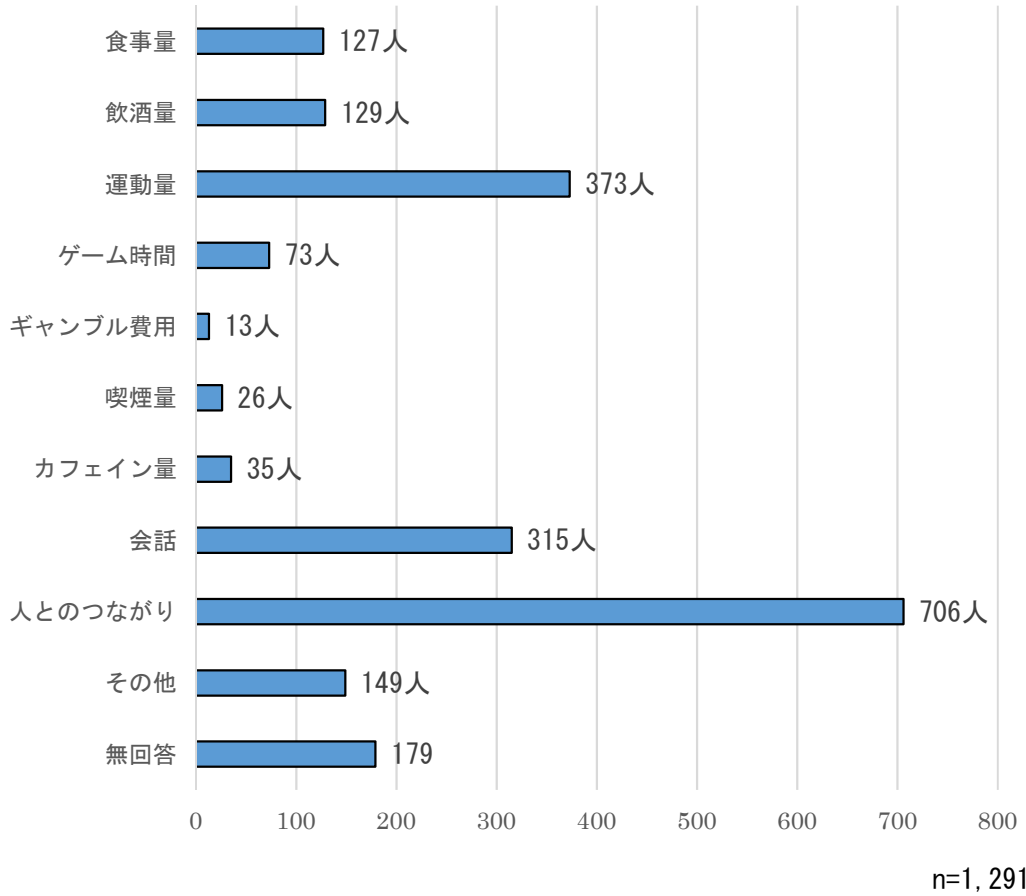


「解消できていない」年齢別回答率



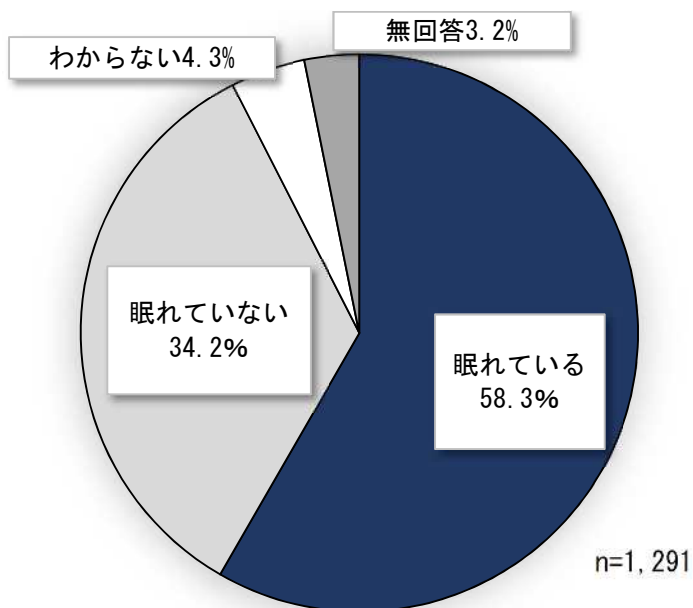
問23 コロナ禍で、変化したものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

コロナ禍で変化したものについて、「人とのつながり」が最も多く、次いで「運動量」、「会話」となっています。

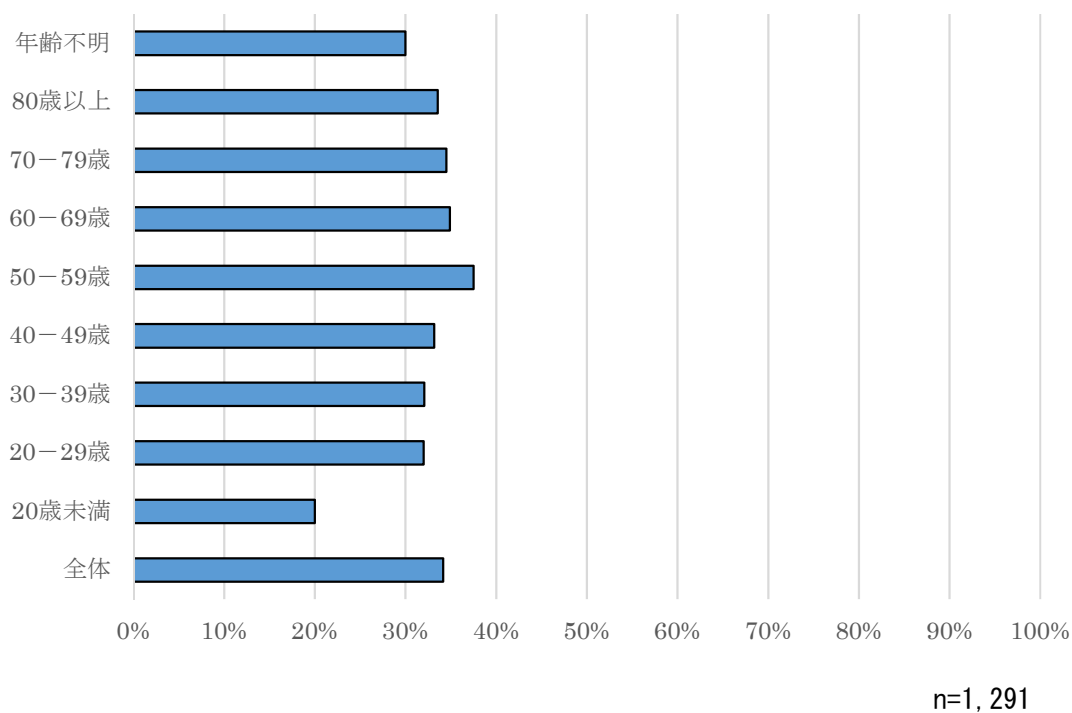


問24 毎日眠れていますか。(○は1つ)

毎日眠れているかについて「眠れている」と答えた方は全体の58.3%で、「眠れていない」は34.2%、「わからない」は4.3%でした。年齢別の回答率で「眠れていない」の割合が30%に満たないのは「20歳未満」のみで、その他の年代は30%代となっています。

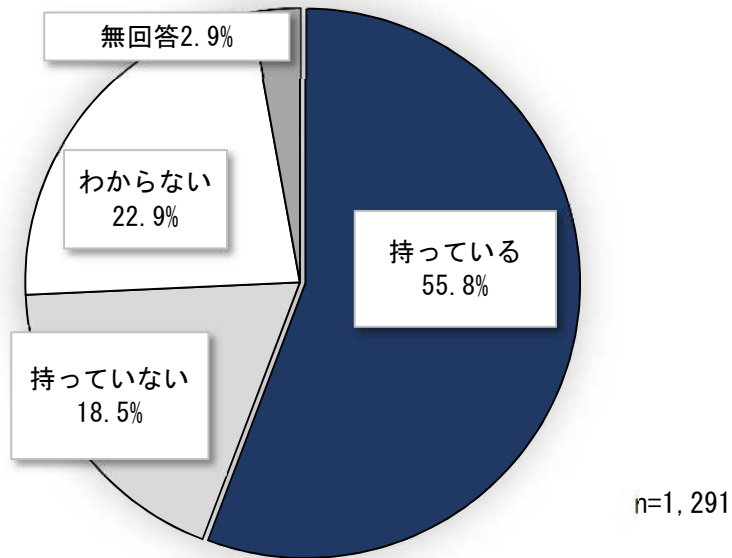


「眠れていない」の年齢別回答率

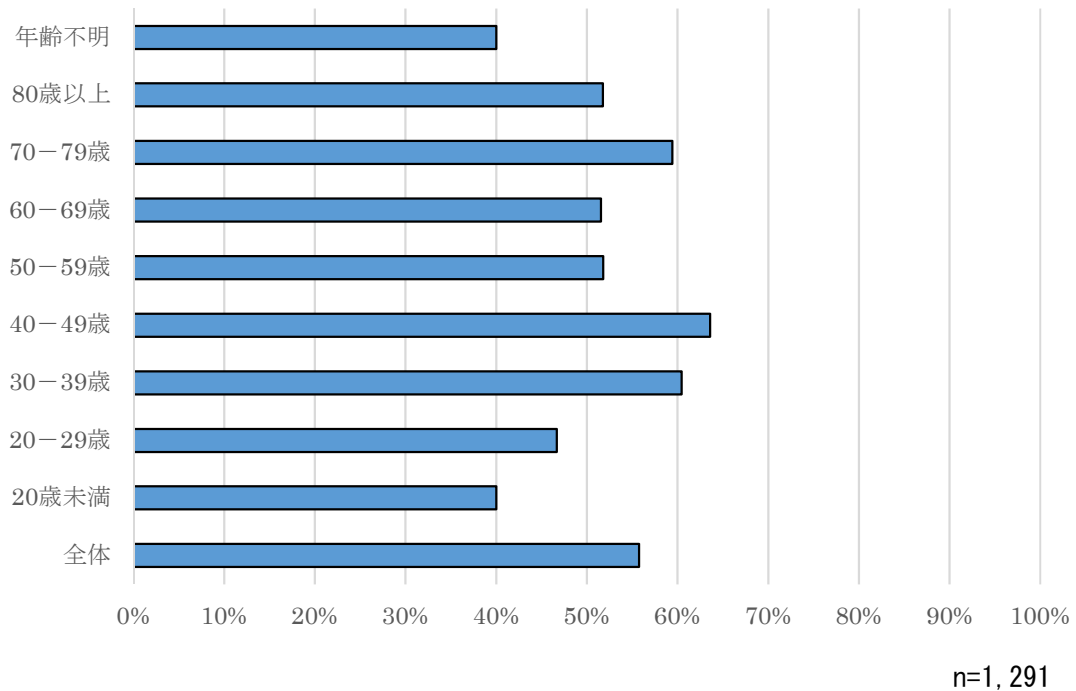


問25 生きがい・やりがいを持っていますか。(〇は1つ)

生きがいややりがいを「持っている」と答えた方は全体の55.8%、「持っていない」は18.5%「わからない」は22.9%でした。年齢別の回答率で「持っている」の割合が60%を超えるのは「40-49歳」「30-39歳」となっています。



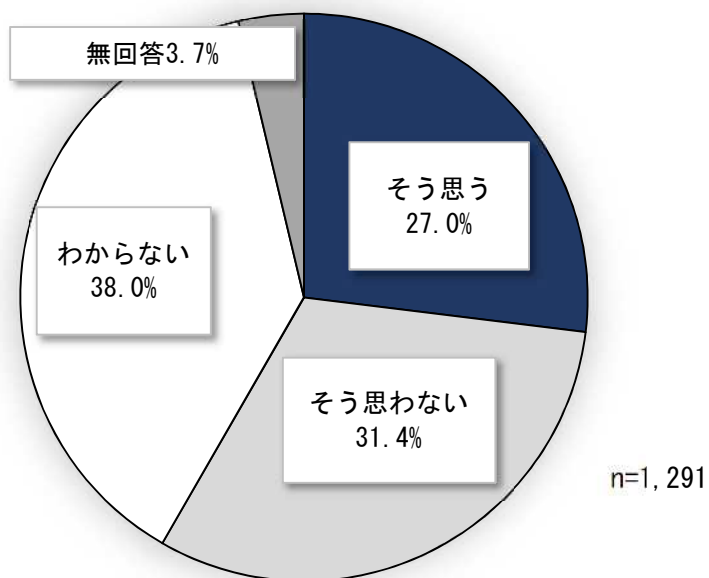
「持っている」の年齢別回答率



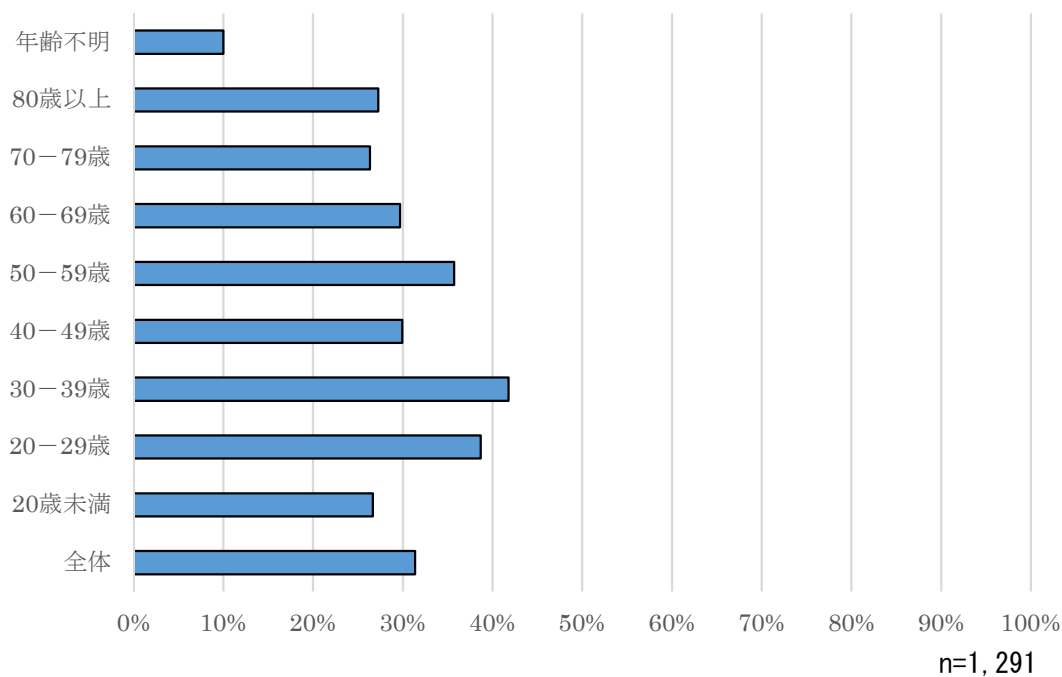
問26 あなたのお住まいの地域について、お互いに助け合っていると思いますか。

(○は1つ)

地域でお互いに助け合っているかについて「そう思う」と答えた方は全体の27.0%で、「そう思わない」は31.4%、「わからない」は38.0%でした。年齢別の回答率で「そう思わない」の割合が30%を超えるのは「50-59歳」「30-39歳」「20-29歳」となっています。



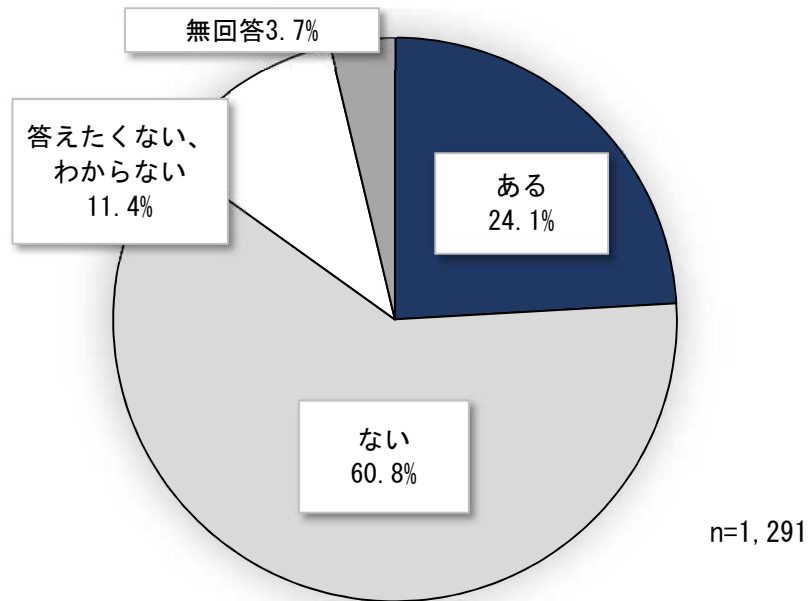
「そう思わない」の年齢別回答率



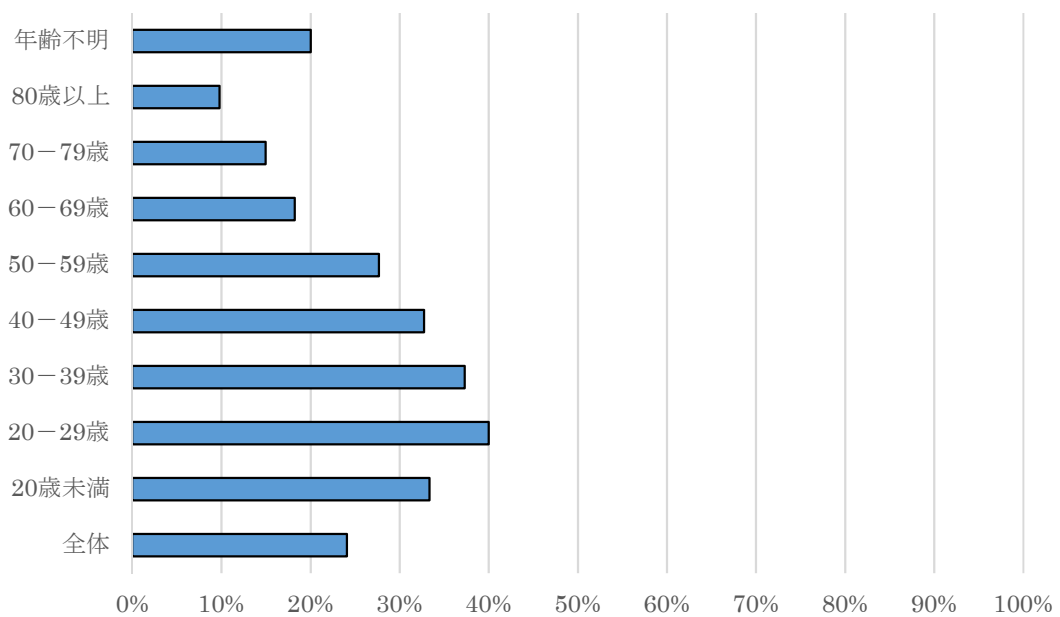
問27 今までに死にたいと思いつめるほど悩んだことがありますか。

(○は1つ)

死にたいほど思いつめたことがあるかについて「ある」と答えた方は全体の24.1%で、「ない」は60.8%、「答えたくない、わからない」は11.4%でした。年齢別の回答率で「ある」の割合が「20-29歳」が40%代で、「30-39歳」「40-49歳」と「20歳未満」では30%代となっています。



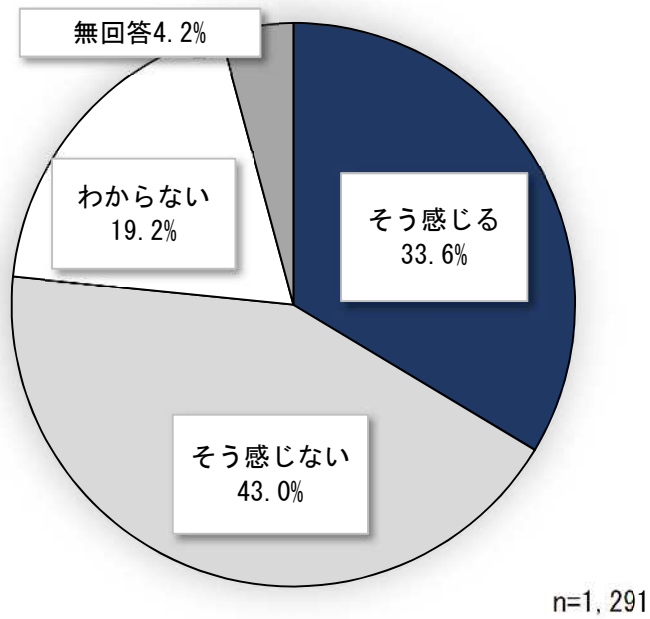
「ある」の年齢別回答率



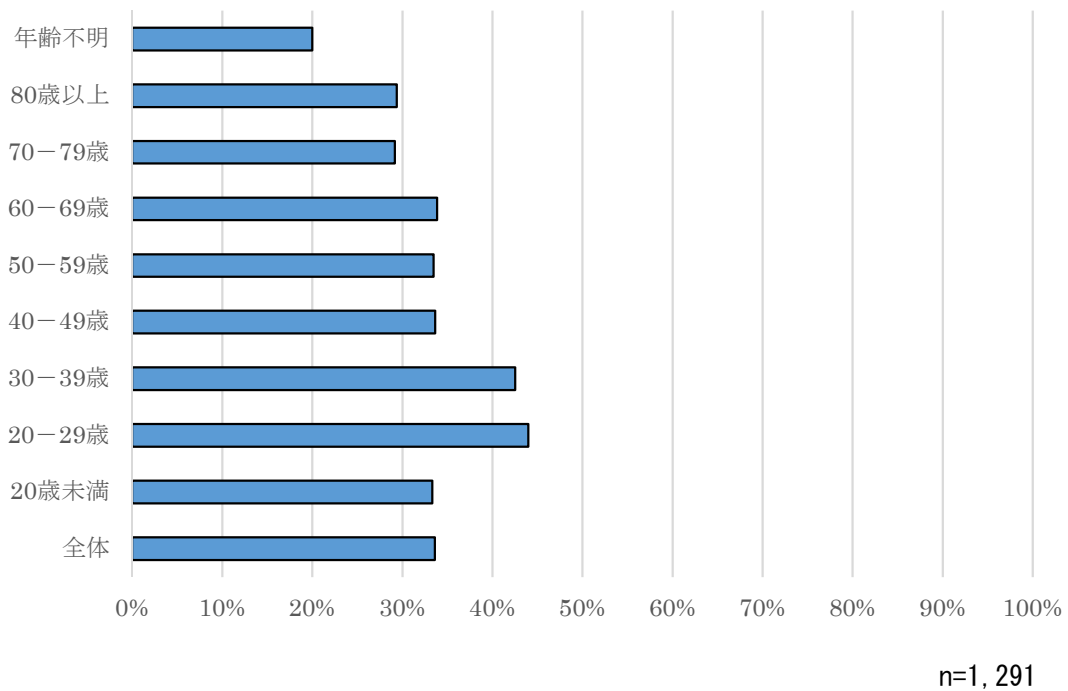
n=1,291

問28 悩みを抱えたときやストレスを感じたときに誰かに相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じますか。(○は1つ)

相談したり、助けを求めたりすることへのためらいを感じるかについて「そう感じる」と答えた方は全体の33.6%、「そう感じない」43.0%、「わからない」19.2%でした。年齢別の回答率で「そう感じる」の割合が30%に満たないのは「80歳以上」「70-79歳」となっています。



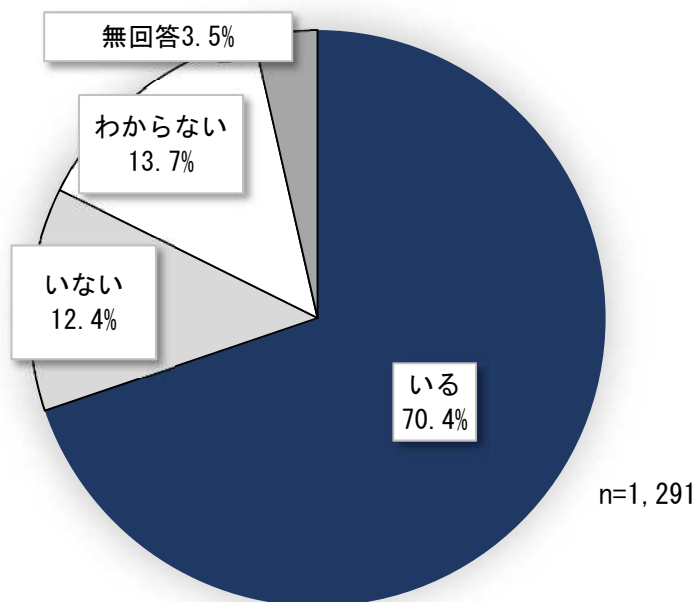
「そう感じる」の年齢別回答率



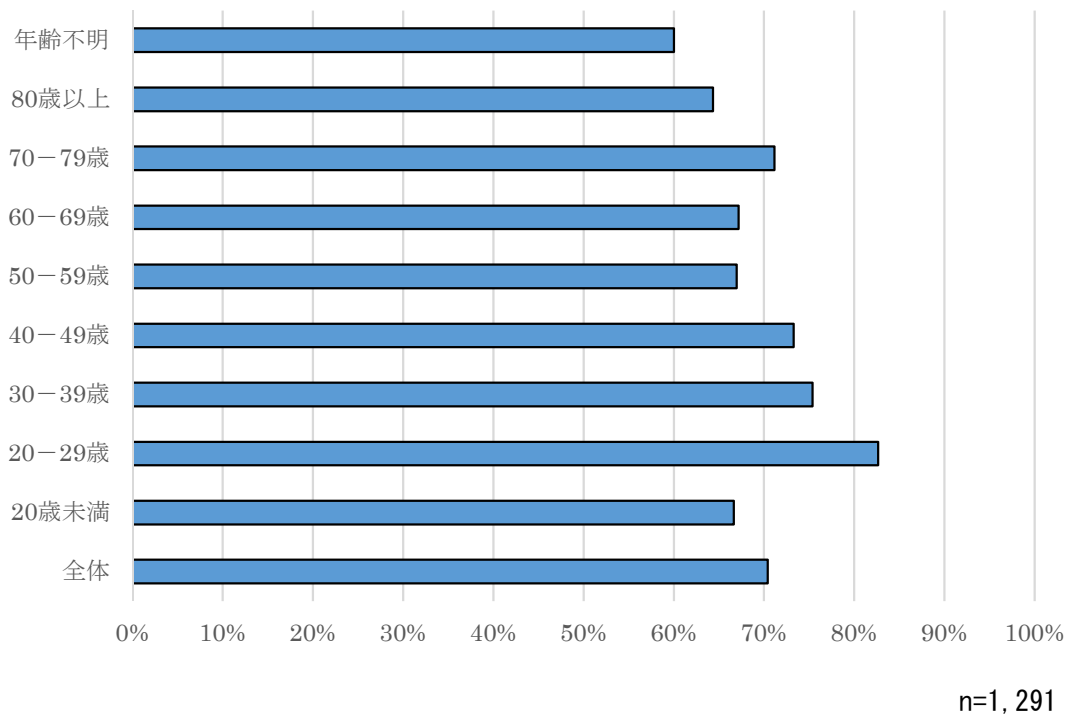
問29-1 悩みごとや困ったことがあったとき相談する人がいますか。

(○は1つ)

相談する人について「いる」と答えた方は全体の70.4%で、「いない」は12.4%、「わからない」は13.7%でした。年齢別の回答率で「いる」の割合がどの年代も60%を超えており、「20-29歳」は80%を超えています。



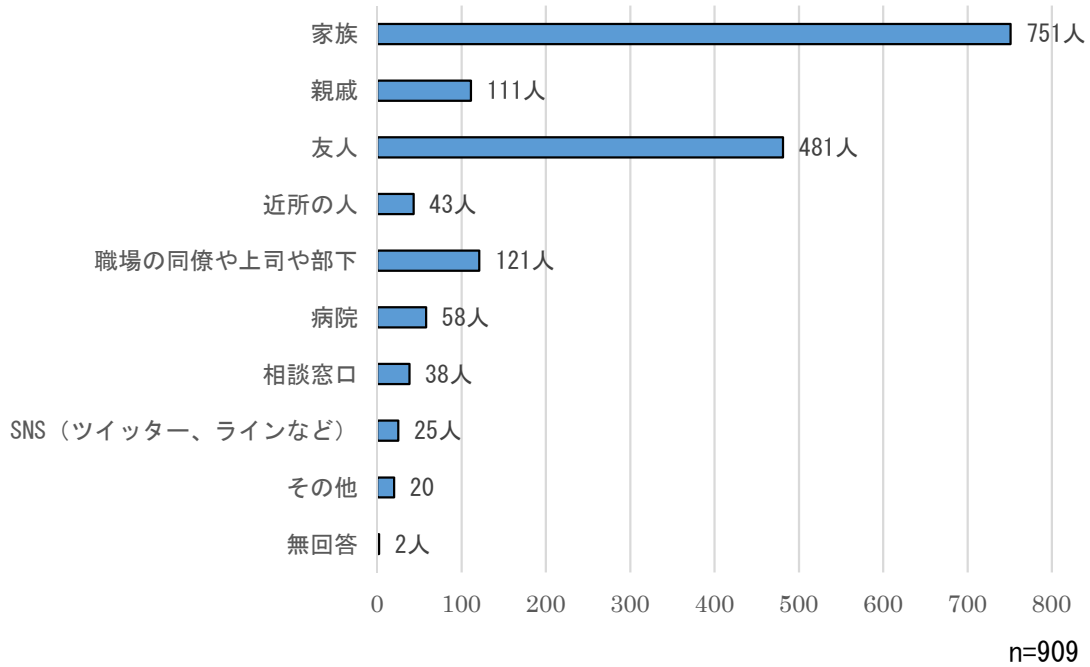
「いる」の年齢別回答率



問29-2 「いる」と答えた方に伺います。どなたに相談しますか。

(あてはまるものすべてに○)

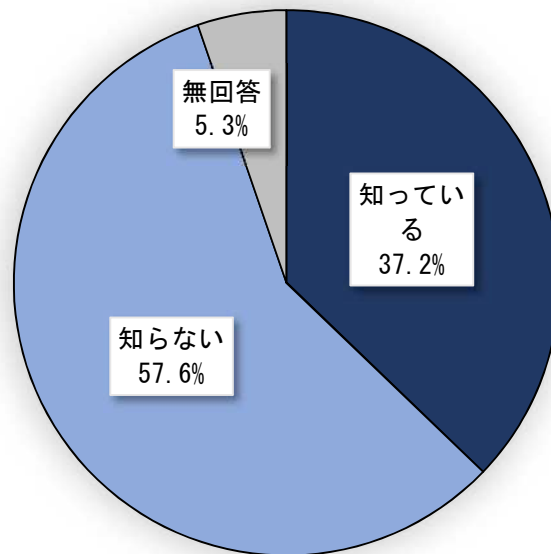
相談をする相手については「家族」が最も多く、次いで「友人」「職場の同僚や上司や部下」「親戚」となっています。



5 ひきこもりに関する意識について

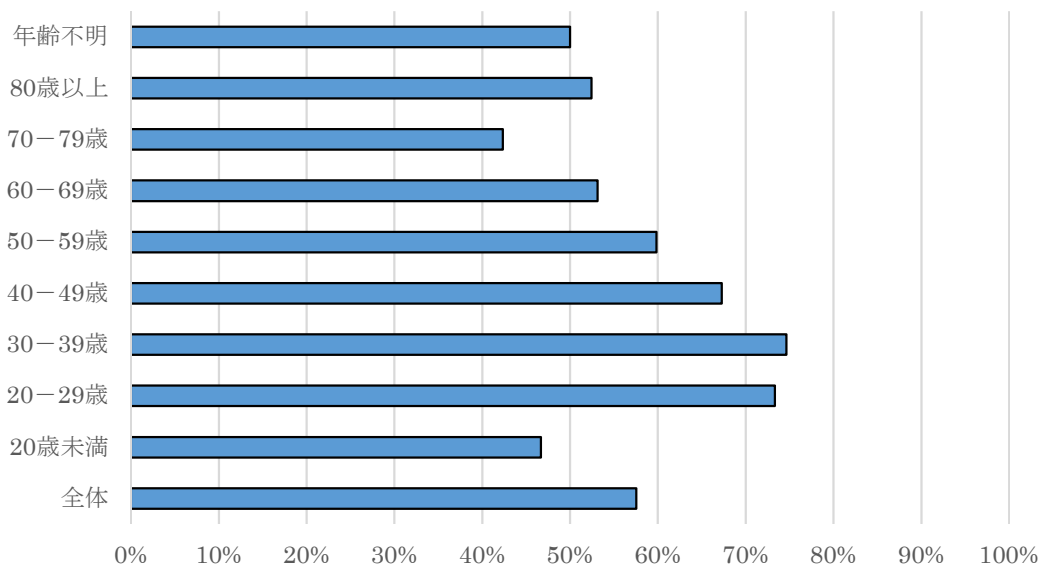
問30 ひきこもりの定義は、「様々な要因の結果として、社会的参加を回避し、原則的には6カ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態を示す現象概念」とされていることを知っていますか。(○は1つ)

ひきこもりの定義について「知っている」と答えた人は全体の37.2%、「知らない」と答えた人は57.6%でした。年齢別の回答率で「知らない」の割合が70%を超えるの「30-39歳」「20-29歳」となっています。



n=1,291

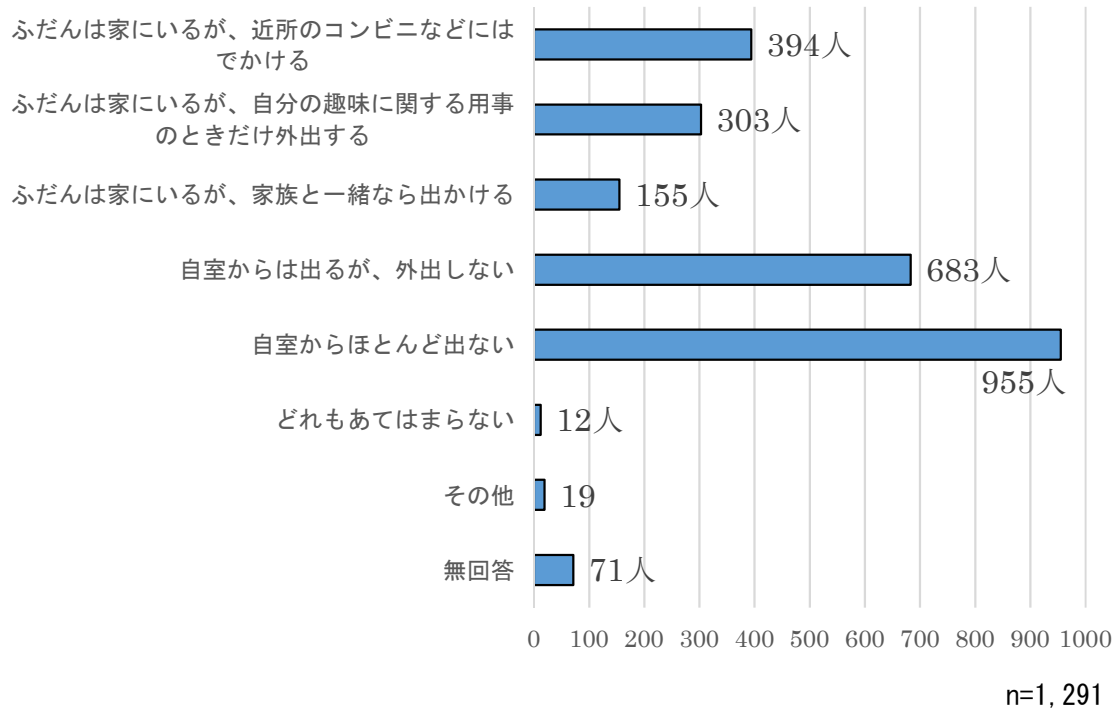
「知らない」の年齢別回答率



n=1,291

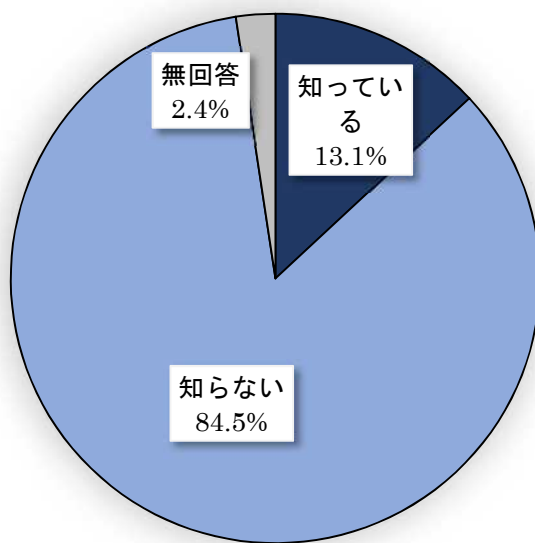
問3 1 ひきこもりはどのような状態であるか、当てはまると思う項目に○をつけて下さい。(あてはまるものすべてに○)

ひきこもりはどのような状態かについて「自室からほとんど出ない」が最も多く、次いで、「自室からは出るが、外出しない」「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどにはでかける」となっています。



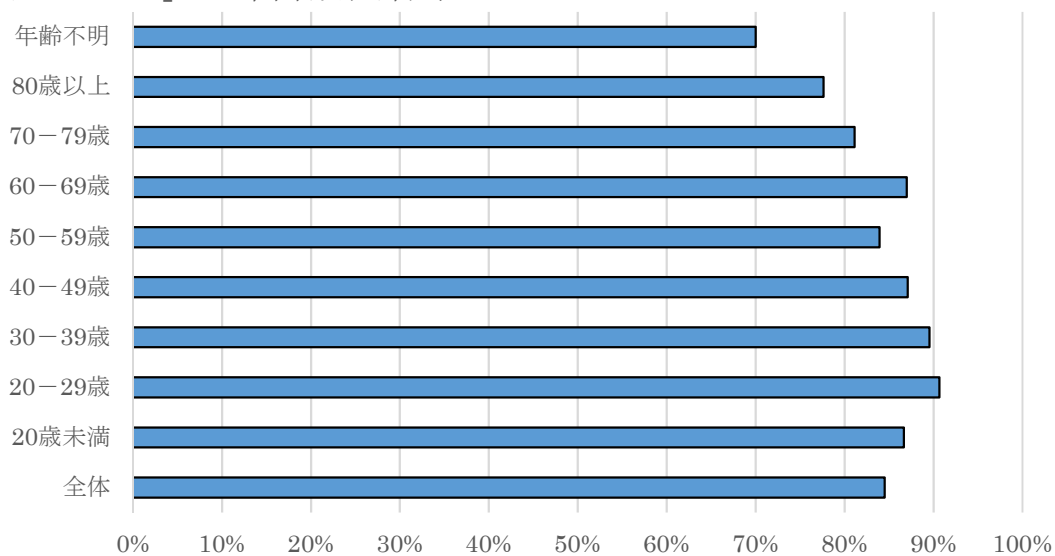
問32 平成30年の国の調査で、40～64歳までのひきこもり者が、推計61.3万人と発表されました。15～64歳までの全国ひきこもり者は推計100万人を超えることを知っていますか。(〇は1つ)

15～64歳までの全国ひきこもり者は推計100万人を超えることについて「知っている」と答えた人は全体の13.1%、「知らない」と答えた人は84.5%でした。年齢別の回答率で「知らない」の割合が90%を超えるのは「20-29歳」となっています。



n=1,291

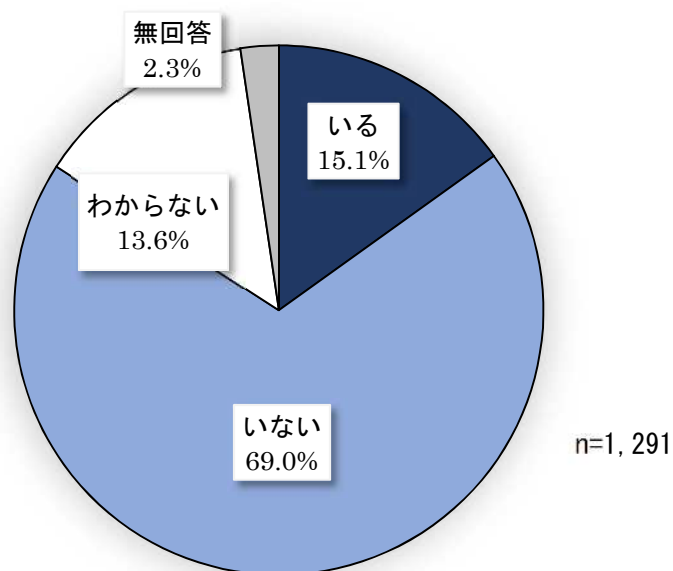
「知らない」の年齢別回答率



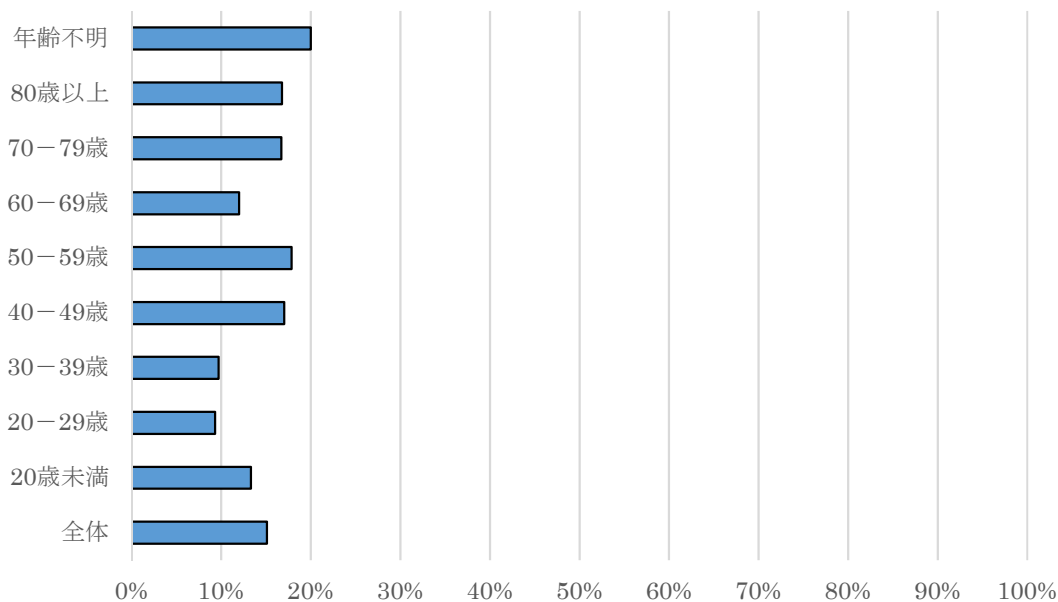
n=1,291

問33-1 身近な人にひきこもり状態の人はいますか。(〇は1つ)

身近な人にひきこもり状態の人がいるかについて「いる」と答えた人は全体の15.1%、「いない」は69.0%、「わからない」は13.6%でした。年齢別の回答率で「いる」の割合が10%に満たないのは「30-39歳」「20-29歳」となっています。



「いる」の年齢別回答率

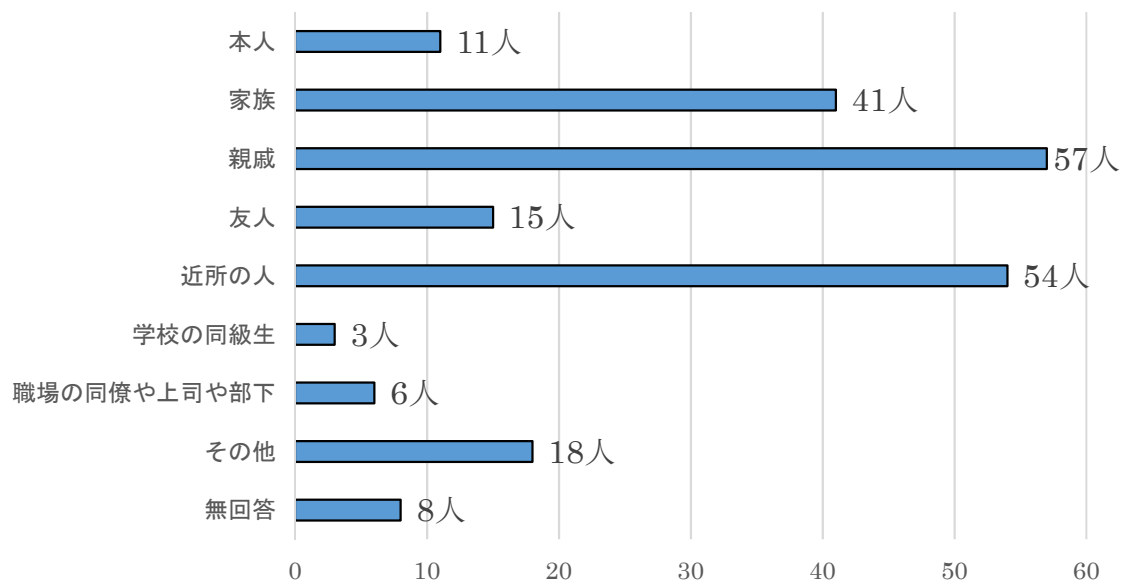


n=1,291

問33-2 「いる」と答えた方に伺います。どなたのことですか。

(あてはまるものすべてに○)

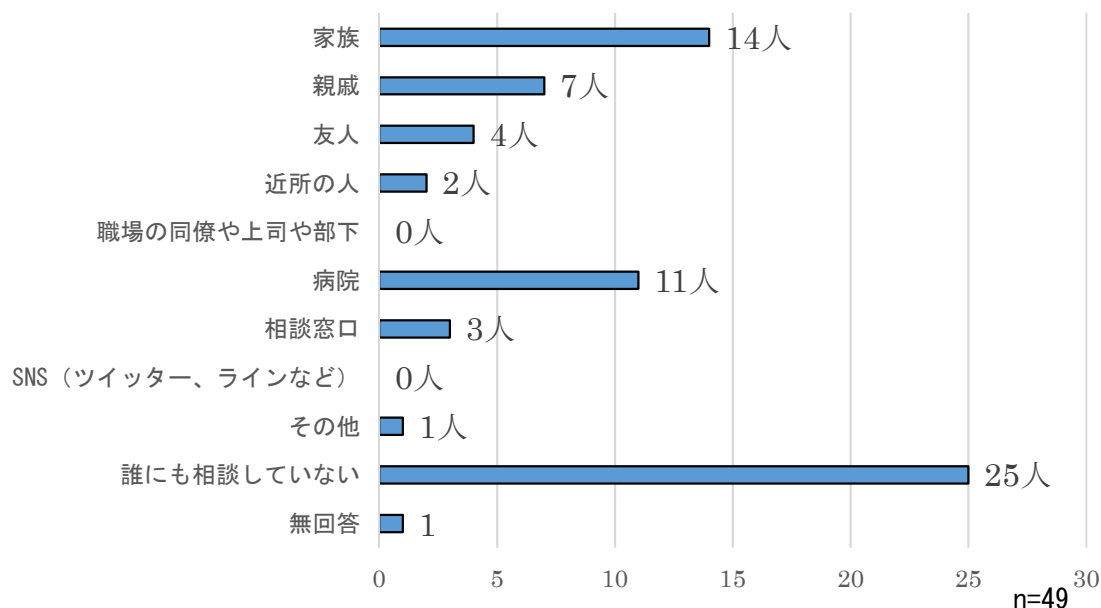
どなたがひきこもっているかについて「親戚」が最も多く、「その他」を除き、次に多いのは「近所の人」、「家族」、「友人」となっています。



n=195

問33-3 「1. 本人 2. 家族」と答えた方に伺います。ひきこもりについて、どなたに相談していますか。(あてはまるものすべてに○)

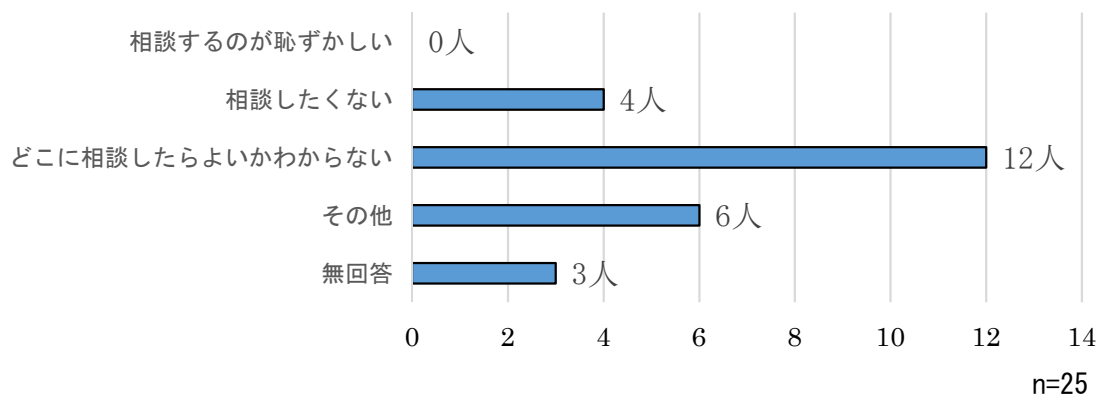
どなたに相談しているかについて「誰にも相談していない」が最も多く、次に多いのは「家族」「病院」「親戚」となっています。



n=49

問33-4 「9. 誰にも相談していない」と答えた方に伺います。その理由は何ですか。
 (あてはまるものすべてに○)

誰にも相談していない理由について、「その他」を除き、「どこに相談したらよいかわからない」が最も多く、次いで「相談したくない」でした。



問34 今後ひきこもり支援にどんなことが必要と思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

ひきこもり支援にどんなことが必要と思うかについて、「訪問支援」が最も多く、次に多いのは「相談窓口の周知」、「相談支援センターの設置」となっています。

